

## はじめに

厚生労働省におけるひきこもり対策は、これまで精神保健福祉分野、児童福祉分野等において実施しており、全国の精神保健福祉センター、保健所、児童相談所等にて、ひきこもりを含む相談等の取り組みが行われてきました。当精神保健福祉センターにおいても、思春期対策事業として不登校等の相談に対応してきたところです。

その後、平成21年度から厚生労働省の「ひきこもり対策推進事業」により、「ひきこもり地域支援センター」の各都道府県・指定都市への設置が推進されました。令和2年4月時点において、全国に67の自治体でひきこもり地域支援センターが75か所設置されているところです。また、平成25年度からは、ひきこもり状態にある本人やその家族に対するきめ細かく継続的な相談支援や早期の把握を目的として「ひきこもりサポーター養成研修事業」、「ひきこもりサポーター派遣事業」が厚生労働省の新規事業となりました。また、平成27年4月に生活困窮者自立支援法が施行され、生活困窮者自立相談支援事業体系の中にひきこもり対策推進事業が任意事業として位置づけられました。

福岡県においては、平成22年6月にひきこもり地域支援センターが当精神保健福祉センター内に設置され、10年経過しました。平成31年度相談延べ件数は1760件で、本人・家族からの相談に加えて、関係機関からの相談件数も年々増えてきております。

今回、令和元年度のひきこもり対策推進事業の報告書を作成しましたので、ひきこもりに係る支援において参考にさせていただきたいと存じます。

最後に、日頃から当センターにおけるひきこもり対策の推進にご協力いただき、関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

福岡県精神保健福祉センター  
楯林 英晴

## 各事業の概要

当支援センターは、第一次相談窓口としてケースの状況を十分に理解し、適切な関係機関に繋ぐことが役割である。ひきこもりの相談では、本人だけでなく家族関係等、様々な問題を抱えていることが多く、関係機関等と連携しながら継続的に支援している。対応内容や方法について検討、工夫を行い、ひきこもり対策推進事業を実施したので報告する。

### 1 ひきこもり相談・支援事業

#### (1) 目的

保健福祉（環境）事務所等と協力のもと、ひきこもりの相談窓口としての役割を担う。

#### (2) 事業内容

##### ア 電話相談事業

月～金曜日の9時から17時15分（祝日及び年末年始を除く）実施。

##### イ 来所相談事業

月～金曜日の9時30分から16時20分まで要予約とし、概ね1時間程度の面接実施。

##### ウ 訪問（アウトリーチ）支援

事例在住管轄の保健福祉（環境）事務所と訪問支援をする他、関係機関への同行支援も実施。

### 2 人材育成事業

#### (1) ひきこもり家族教室の開催

##### ア 目的

- (ア) 家族がひきこもりに対する正しい知識を学ぶ場の提供。
- (イ) 学習や意見交換を通し、家族の不安や孤立感の軽減を図る。
- (ウ) 家族が本人に対して主体的な関与ができるように支援する。

##### イ 対象者

- (ア) 社会的ひきこもりの方（概ね18歳以上）の家族
- (イ) 県内に居住の者

##### ウ 開催日程

全4回を1クールとし、2クール実施。

第1木曜日（1月は第2木曜日） 14：00～16：00

#### (2) ひきこもり支援関係者研修会の開催

ひきこもり支援関係者（保健福祉（環境）事務所職員、市町村職員、医療関係者、支援ボランティア、福祉・学校関係者、教育機関関係者等）の資質向上を図ることを目的に実施。

### 3 関係機関連携強化事業

#### (1) ひきこもり対策連絡調整会議の開催

ひきこもりに関する機関（労働・保健・福祉・医療・教育等）の連携を強化し、支援体制の充実を図ることを目的に実施。

#### (2) 保健福祉（環境）事務所とのひきこもり対策連絡会議の開催

県内9か所の保健福祉（環境）事務所及び久留米市保健所、大牟田市保健所を対象に、事業内容や事例等の情報・意見交換を実施。

(3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会議の開催  
県内の成人期を対象としたひきこもり地域支援センターの実務者による各センターの取り組み状況及び課題等に関する意見及び情報交換を実施。

(4) ひきこもり支援者等ネットワーク会議の開催  
県域の医療・福祉・労働・教育等の各関係機関の取り組み状況等に関する情報交換を実施。

#### 4 当事者・家族支援事業

##### (1) フリースペース（ねすと♪たまゆら）

###### ア 目的

ひきこもり状態にある本人を対象に家庭以外に安心して過ごせる場所を確保することで、同世代の仲間と出会い、人との関わりや様々な体験の場を提供する。

###### イ 対象者

県内居住の社会的ひきこもり状態にある本人（概ね18歳以上）

###### ウ 開催日程

毎月第2・4水曜日 14:00～16:00

##### (2) 家族サロン

###### ア 目的

家族同士の語らいを通して、家族の癒しや情報交換の場として活性化することによって、自助機能を高めていく。

###### イ 対象者

県内居住の社会的ひきこもり状態にある本人（概ね18歳以上）の家族

###### ウ 開催日程

毎月第3金曜日（14:00～16:00）実施する。

初回の参加者の方には個人面談を実施している。

#### 5 情報発信事業

##### (1) 目的

地域のひきこもり支援に必要な情報を提供するとともに、相談窓口の周知徹底を図る。

##### (2) 事業内容

ア 福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書の作成・配布

イ リーフレットの作成・配布

ウ 福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブックのメンテナンス 改訂・配布

エ 各事業のチラシ作成・配布

オ ホームページ更新

(ア) 各種事業の案内

(イ) ひきこもり対策連絡調整会議資料 掲載

(ウ) ひきこもり支援者研修会資料 掲載

(エ) 福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブックのメンテナンス 掲載

(オ) ひきこもり相談事業マニュアル～ひきこもりの方を支えるために～ 掲載

(カ) 県内ひきこもり地域支援センター同士のホームページの相互リンク 実施

## 6 令和元年度ひきこもり対策推進事業方針

### (1) ひきこもり相談事業

#### 1) 相談支援

- ア 面接（来所）相談及び訪問支援・同行支援（アウトリーチ支援）の拡充
  - イ 相談業務マニュアルのメンテナンス
- #### 2) 相談窓口の広報
- ア 広報媒体（県・市町村）の活用による広報の拡充
  - イ 研修会や会議等の活用による広報活動の拡充
  - ウ ホームページの随時メンテナンス

### (2) 人材育成事業

#### 1) ひきこもり家族の学習の場（家族教室等）の拡充

全4回を1クールとし、2クール実施。募集に関しては、開催前に各関係機関に案内すると共にHPや相談にて随時案内した。

第1または第2木曜日 14:00～16:00

- 2) ひきこもり支援関係者研修会の実施
- 3) 事例検討会等の実施

### (3) 関係機関連携強化事業

#### 1) ひきこもり対策連絡調整会議の充実

- 2) 保健福祉環境事務所及び保健所設置市との定期的連携会議の実施  
今年度より、センターでの開催とした。

- 3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会議の充実  
県内センター間の情報交換及び連携強化のため開催  
開催場所は持ち回り

#### 4) ひきこもり支援関係者等ネットワーク会議

県域のひきこもり支援関係者の実務レベルの連携体制の構築を目的に開催

- 5) ひきこもり地域支援センター全国連絡協議会への参加

### (4) 情報発信事業

- 1) ホームページ等掲載情報のメンテナンスを随時実施
- 2) 福岡県ひきこもり支援者等関係団体ガイドブックの更新、作成等
- 3) 定期的及び随時のマスコミ等への広報活動

### (5) ひきこもり本人・家族への支援事業

- 1) フリースペース事業の拡充 毎月第2・4水曜日 14:00～16:00  
当事者支援のため、居場所の確保や次の支援へのステップアップを図る。

- 2) 家族サロンの拡充 毎月第3金曜日 14:00～16:00  
家族支援のため、家族同士が悩みを共有するとともに、問題解決の糸口を見つける機会を得るようサポートする。

### (6) 普及啓発

ひきこもり支援関係者等、他機関からの依頼に応じて、ひきこもりに関する講話やひきこもり地域支援センターの役割等について、普及啓発を行う。



## 各事業実績

### 1 ひきこもり相談・支援事業

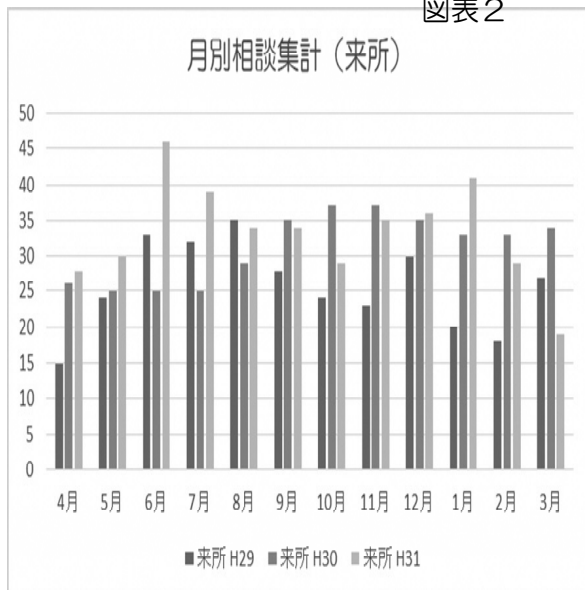
(1) 相談件数(図表1、2、3) ※統計データについては、平成31年度と表記しています。

平成31年度は、5月、6月と「ひきこもり」に関わる事件が続けて起こり、相談件数が増加した。また、2月、3月は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、外出の自粛要請等も関係し、相談件数が減少した。相談受理延べ件数は、電話相談1329件、来所相談400件、訪問31件となっており、電話相談の月平均が111件、来所相談が33件となっている。継続支援に当たっては予め手続きや基準を作成し、方向性を明確にした上で拡充を図るとともに、関係機関とはケースや会議を通して、情報共有を行い、連携体制の構築に努めた。月平均は147件程度で、合計延件数は1760件だった。

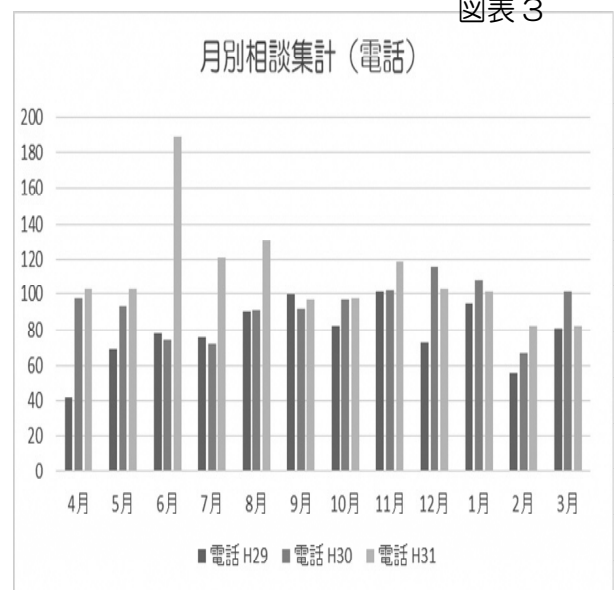
図表1

	電話				来所				訪問・同行		
	H29	H30	H31		H29	H30	H31		H29	H30	H31
4月	42	98	103	4月	15	26	28	4月	0	0	10
5月	69	93	103	5月	24	25	30	5月	0	5	3
6月	78	74	189	6月	33	25	46	6月	0	1	5
7月	76	72	121	7月	32	25	39	7月	2	1	1
8月	90	91	131	8月	35	29	34	8月	0	1	3
9月	100	92	97	9月	28	35	34	9月	1	4	0
10月	82	97	98	10月	24	37	29	10月	3	6	1
11月	101	102	119	11月	23	37	35	11月	5	4	2
12月	73	116	103	12月	30	35	36	12月	3	6	4
1月	95	109	101	1月	20	33	41	1月	3	5	2
2月	56	67	82	2月	18	33	29	2月	1	6	0
3月	81	101	82	3月	27	34	19	3月	3	8	0
合計	943	1112	1329	合計	309	374	400	合計	21	47	31
月平均	78.5	92.7	110.8	平均	25.8	31.2	33.3	平均	1.8	3.9	2.6

図表2



図表3

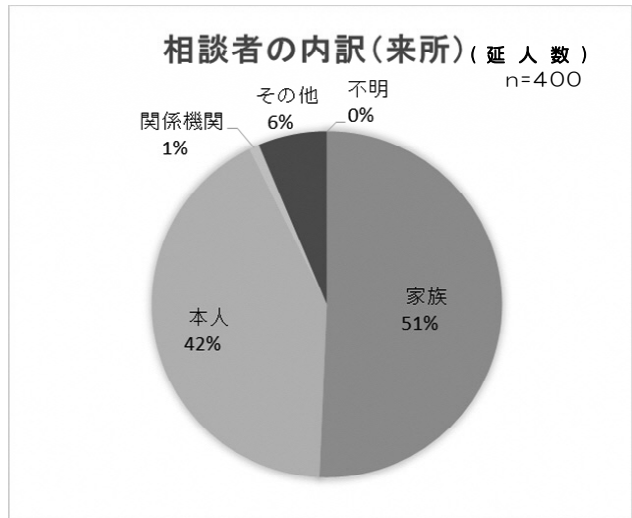
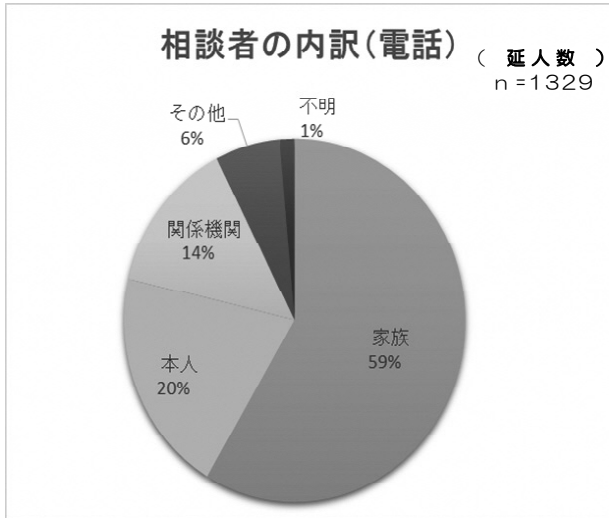


(2) 相談者の内訳 (図表4、5)

昨年度に比べ、電話は家族が639人から776人、本人が224人から266人と増加しており、来所は家族が249人から263人、本人が186人から218人と増加している。また、電話及び来所相談ともに家族が過半数を超え、関係機関の相談も増加傾向である。

図表4

図表5 ※1



※1 複数人の来所により、来所延べ件数と異なる。

(3) 本人の性別 (図表6)

電話相談では男性が67.0%、来所相談では74.0%と、いずれにおいてもひきこもりの本人は男性が多い状況である。

図表6(実件数)

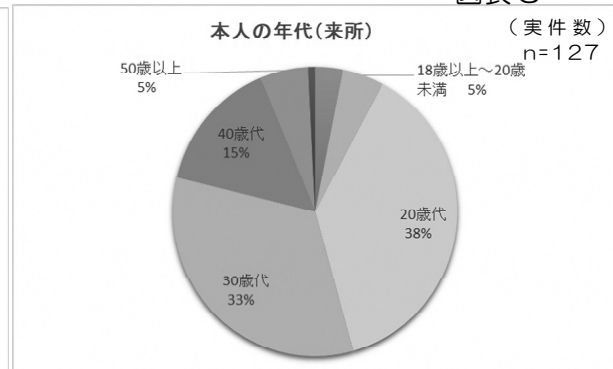
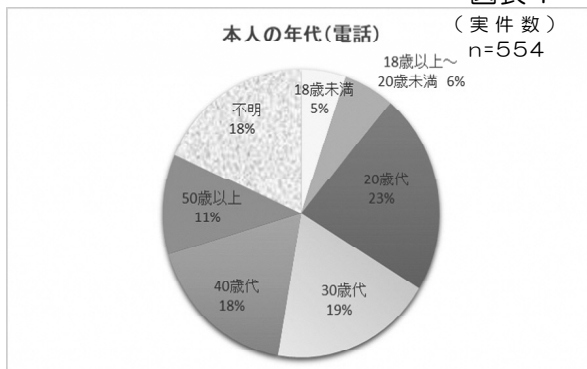
	男性	女性	不明	合計
電話	371件(67.0%)	152件(27.4%)	31件(5.6%)	554件
来所	94件(74.0%)	32件(25.2%)	1件(0.8%)	127件
訪問	9件(56.3%)	7件(43.8%)	0件	16件

(4) 本人の年代 (図表7、8)

電話相談では、20歳代125件、30歳代105件、40歳代98件の順に多く、来所相談では、20歳代48件、30歳代42件、40歳代19件の順となっており、来所相談においては、20歳代、30歳代が半数近くを占めている状況である。

図表7

図表8



## 2 人材育成事業

### (1) ひきこもり家族教室

#### ア 日程・プログラム内容

		開催日程	参加状況	内容
1 ク ール	第1回	令和元年6月6日(木)	19名 (14家族)	・講話「ひきこもりの基礎知識、支援センターのできること」 講師：福岡県ひきこもり地域支援センター 保健師 ・懇談会
	第2回	令和元年7月4日(木)	21名 (17家族)	・講話「ひきこもりの症状と対応」 講師：福岡県精神保健福祉センター医師 ・懇談会
	第3回	令和元年8月8日(木)	23名 (19家族)	テーマ：家族の支援と役割 ・DVD鑑賞「ひきこもりからの回復 わが子がひきこもったとき ～家族の役割と支援～」 ・懇談会
	第4回	令和元年9月5日(木)	24名 (20家族)	・講話「ひきこもり本人からのメッセージ」 講師：センター利用者2名 ・懇談会
2 ク ール	第1回	令和元年11月7日(木)	18名 (14家族)	・講話「ひきこもりの基礎知識、支援センターのできること」 講師：福岡県ひきこもり地域支援センター 保健師 ・懇談会
	第2回	令和元年12月5日(木)	12名 (12家族)	・講話「ひきこもりの症状と対応」 講師：福岡県精神保健福祉センター医師 ・懇談会
	第3回	令和2年1月9日(木)	22名 (21家族)	・講話「ひきこもりからの回復～当事者からのメッセージ～」 講師：センター利用者2名 ・懇談会
	第4回	令和2年2月6日(木)	25名 (18家族)	テーマ：家族の支援と役割 ・講話「家族関係の棚卸」 講師：福岡県立大学 四戸智昭 先生 ・懇談会

- ・全4回を1クールとし、2クール実施した。募集に関しては開催前に各関係機関に案内すると共にHPや相談にて随時、案内した。

#### イ 参加状況

	実施回数	参加者総数	参加者実人数	1回あたり参加者
H30年度	2クール(3回×2) 研修会	99名	51人(43家族)	14.1人
R元年度	2クール(4回×2)	164名	57人(45家族)	20.5人

- ・令和元年度全体の参加は45家族(うちH30年からの継続参加は7家族)、参加者実数57人、延べ参加者数164人、平均参加人数は約20.5人であった。

## ウ 参加者の背景

参加者とひきこもりの本人の状態は、次のとおりである。

家族教室参加者

参加者の本人との続柄	
本人との続柄	人数
母親	42
父親	12
同胞	0
その他	3
合計	57

参加者の年齢	
年代	人数
20代	0
30代	0
40代	3
50代	15
60代以上	37
不明	2
合計	57

家族教室への参加経路	
経路	人数
当センターからの紹介	46
HPをみた	4
病院からの紹介	4
自立支援窓口からの紹介	2
チラシをみた	1
その他	0
合計	57

ひきこもり本人

本人の性別	
性別	人数
男	38
女	6
不明	0
合計	44

本人の年齢	
年代	人数
10代	2
20代	16
30代	19
40代	7
50代	0
不明	0
合計	44

本人のひきこもり期間	
ひきこもり期間	人数
1年未満	9
1年以上～3年未満	5
3年以上～5年未満	6
5年以上～10年未満	8
10年以上	15
不明	1
合計	44

## エ アンケート結果

		主な感想
1 ク ール	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義の中の「ひきこもりのステップの4段階」の1段も飛ばせないが心に残った。</li> <li>・家族が変わらないと本人も変わらないと思う。</li> <li>・苦しい気持ちを分かるように努力していくこと、子どもを理解していくことの大事さを感じた。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;家族に心の余裕がないと家族自身がしんどくなってしまう&gt;という言葉が心に残った。</li> <li>・教室に参加することによって私が変わっていきたいと思うようになった。</li> <li>・さらっと自然な形で会話ができていいと思った。</li> </ul>
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親子の信頼関係をしっかり作って行動で示せば、いつか子どもは動いてくれると信じてがんばります。</li> <li>・家族教室に参加していることを本人に隠さなくていいのではと思った。</li> <li>・DVDでみて親の気持ち、本人の気持ちを改めて考えさせられた。</li> </ul>
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元ひきこもり当事者の生の言葉に感動した。自分と向き合ってしっかりこれからの道を歩んで進み始めている姿に感動した。</li> <li>・自分の心がやすらぎ、安定した。</li> <li>・元当事者の方のひきこもり当時から今の心の動きがわかり、ためになった。</li> </ul>
2 ク ール	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族のコミュニケーションの参考になった。</li> <li>・禁句に注意しながら一呼吸置いて声かけを心がけようと思った。</li> <li>・1クール目も参加して2クール目だが、マンネリ化せず新鮮さを持てた。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今からが大切だと思った。(つい、原因等や初期のころの対応等を思い出す事があった)</li> <li>・病気や障害が関与している場合があると学んだので、よく観察しようと思う。</li> <li>・「本人へ仕事しろ」とかは禁句であると理解し、実行し始めている。</li> </ul>
	第3回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・親が一人で悩んでいるのではない。フリースペースや若者サポートステーションを利用して変わったと聞いて私たちが前向きに頑張ろうと思った。</li> <li>・当事者の方の気持ちを聞いて安心した。ゆっくり進めて行っていいんだと思った。</li> <li>・ひきこもりの子どもを変えたいという気持ちが大きい。「日常が変わらずにいてくれたことがありがたかった」という話が心に残った。</li> </ul>
	第4回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗜癖の概念を理解できた。</li> <li>・ありのままをほめてあげようと思った、本人の話も聞いてあげようと思った。</li> <li>・母としての役割を考えさせられた。</li> </ul>

- ・アンケートの結果、家族教室に感想についてという質問に、参加してとてもよかった、よかったと回答された方が9割だった。
- ・家族教室で学んだことが今後の生活で役に立ちそうかという質問に、はいと回答された方が9割だった。

## オ まとめ

今年度は、1クール回数を4回に増やし、参加者が大幅に増加した。参加者増加の要因としては「ひきこもり」に関わる事件が続けて起こり、ひきこもり当事者を持つ家族の関心が高まったこと、教室に参加している家族に事前の連絡を丁寧に行ったこと、希望した家族に個別面談を行ったことで参加者のモチベーションがあがったことなどが考えられる。

参加者の感想としては「どうやって関わればいいのか参考になった」「心が安らいだ」「アドバイスを実践してみようと思った」との声が多かった。

1クール目第4回、2クール第3回の「ひきこもり本人からのメッセージ」では、当センターで相談を継続したひきこもり本人に講話を依頼し実施した。本人たちは各々緊張しながらも自身の体験を無理のない範囲で言葉にし、家族からの質疑応答も行った。その姿に多くの参加者が感動した。

また懇談会では家族間の交流が図れ、おおむね好評であった。一方、講義のみ参加される方もいた。それぞれのニーズに合った参加ができるよう運営していく必要を感じた。

## (2) ひきこもり支援関係者研修会

### ア 日時

令和元年7月12日(木) 14:00~16:00

### イ 会場

福岡県精神保健福祉センター2階 研修室

### ウ プログラム内容

時 間	内 容
14:00~14:10	開会のあいさつ 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
14:10~15:40	講 演 中高年のひきこもりについて考える ～内閣府調査『生活状況に関する調査報告書』から見たこと～ 講 師 久留米大学 文学部社会福祉学科 教授 門田 光司 先生
15:50~	質疑応答・意見交換
16:00	閉会

### エ 参加状況

参加者数は108名であった。研修後のアンケート結果(回答者103名、回収率95.4%)より、所属別では、行政機関54人(52.4%)と最も多く、次に、社会福祉協議会20人(19.4%)、自立相談支援機関8人(7.8%)となっている。職種別では、相談・指導員が最も多く、次に保健師、社会福祉士の順となっている。

【所属】	割合
1 行政機関	54 52.4%
2 社会福祉協議会	20 19.4%
3 相談支援事業所	10 7.8%
4 自立相談支援機関	8 7.8%
5 労働支援関係機関	5 4.9%
6 教育関連機関	0 0.0%
7 医療関係	1 1.0%
10 その他	4 3.9%
回答なし	1 1.0%
合計	103

【職種】	割合
1 相談・指導員	31 30.1%
2 保健師	25 24.3%
3 社会福祉士	16 15.5%
4 事務職	11 10.7%
5 精神保健福祉士	8 7.8%
6 労働支援関係者	2 1.9%
7 心理職	1 1.0%
8 教育関係者	0 0.0%
9 医療関係者	0 0.0%
10 その他	7 6.8%
回答なし	2 1.9%
合計	103

※複数回答あり。

【感想】	
1 大変役に立った	22
2 役に立った	61
3 どちらでもない	12
4 あまり役に立たなかった	1
5 役に立たなかった	0
回答なし	7
合計	103

<感想・自由記載>

- ・客観的なデータから導かれる部分があった。
- ・地域のデータと一致する部分があった。
- ・中高年のひきこもりが多いことが分かった。
- ・ひきこもり当事者の生の声が入っていると思った。本人の気持ちを理解するきっかけになった。

(3) ひきこもりサポーター養成研修

ア 日時

令和元年10月25日(金) 10:00~16:00

イ 会場

福岡県精神保健福祉センター(集団療法室)

ウ プログラム内容

時間	内容
10:00	開会のあいさつ 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
10:10~	事業説明 ①「ひきこもりサポーターに期待する役割について」 ②「ひきこもりサポーターの養成研修事業および派遣事業について」 こころの健康づくり推進室 安在 雄治
10:35~	講義 「ひきこもりに関する理解」 福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
11:15~	講義 「ひきこもり対策の現状と取り組みについて」 福岡県ひきこもり支援センター 技術主査 田中 有利子
(12:00~13:00)	(昼休み)

13:00～ 14:10～	講義 「ひきこもりの方への接し方について」 グループワーク：「あなたならどうしますか」 講師：北九州市ひきこもり地域支援センターすてっぷ センター長 和田 修
15:10	研修での振り返り 同意書について
16:00	閉会

## エ 参加状況

参加人数 7名（ひきこもり元当事者4名、家族2名、支援者1名）

## オ まとめ

ひきこもりからの回復者及びその家族や、ひきこもり支援に関心がある方を対象に、ひきこもりに関する基本的な知識（ひきこもりの概要、支援方法、支援上の注意点等）を習得させることを目的に、福岡県の主催で、こころの健康づくり推進室と当センターが実施した。ひきこもりの方への接し方を、講義や演習を交えて学んでいった。ひきこもり本人が、自宅でサポーターから気持ちに寄り添った支援を受けることは貴重な体験になると考えられる。今回の研修を受講者等から、こころの健康づくり推進室が管理しているひきこもりサポーター養成名簿に5名が登録された。

## 3 関係機関連携強化事業

### (1) 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議

#### ア 日時

令和2年2月13日（木） 15:00～16:30

#### イ 場所

福岡県精神保健福祉センター 2階 研修室

#### ウ 内容

- ・報告「福岡県の今後のひきこもり対策について」
- ・各ひきこもり地域支援センターの取り組み状況
- ・ひきこもりに関する情報提供
- ・意見交換 等

#### エ まとめ

福岡県健康増進課こころの健康づくり推進室より、福岡県の今後のひきこもり対策について、ひきこもりに関する各関係機関から取り組み状況や情報提供等を行い、情報の共有を図った。各委員の所属からの意見が活発に交換された。

### (2) 保健福祉（環境）事務所等のひきこもり対策連絡会議の開催

ア 日時 令和元年9月12日（木） 14:00～16:00

イ 会場 福岡県精神保健福祉センター 研修室

ウ 内容

- ・「ひきこもり地域支援センターの相談支援について」
- ・講話「ひきこもりに関する理解と支援の流れ」  
福岡県精神保健福祉センター 所長 楯林英晴
- ・事例報告、意見交換

エ 参加者（対象者）

保健福祉（環境）事務所、久留米市及び大牟田市のひきこもりの担当者等

オ まとめ

これまでは県内の3つのブロック（福岡、筑後、筑豊）毎に事例検討、情報交換を行っていたが、今年度は精神保健福祉センターで同対象者に対して行い、ひきこもりの理解と支援に関する講話等を行った。参加者の感想はほとんどが「とてもよかった」「よかった」と回答しており、満足度は高かったと思われる。今後も地域の関係機関と連携構築のために、様々な情報交換を行っていききたい。

(3) ひきこもり地域支援センター実務者連絡会の開催

県内の成人期を対象としたひきこもり地域支援センターの実務者による各センターの取組状況及び課題等に関する意見及び情報交換を実施した。

ア 日 時

令和元年6月13日（金）14：00～16：00

イ 場所

九州産業大学 2号館

ウ 内容

- ・各センターにおける取り組み状況及び課題について
- ・各センターの相談支援の取り組みについて

(4) ひきこもり支援者等ネットワーク会議

1) 福岡県域

ア 日 時

令和元年12月12日（木）13：30～16：30

イ 会 場

福岡県精神保健福祉センター2階 研修室

ウ 内 容

- ・「ひきこもりという生き方を『精神科診療所で』支援する」  
講師：医療法人 富田醫院 富田伸 先生
- ・事例報告  
「『どうしようとも思いません』と言う家族からの相談」  
報告者：ひきこもり支援コーディネーター 梅本大地
- ・意見交換（グループワーク）

エ 参加状況

参加者数 66名



オ まとめ

富田醫院の富田先生から、支援者が互いにエンパワメントしていくことの大切さや、「ひきこもりは自己治療である」という言葉をいただき、ひきこもりに対するネガティブな印象が薄れ、会場内の良い雰囲気が醸成された。グループワークでは、活発な意見交換がなされた。

2) 嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所管内

ア 日時

令和2年1月28日(火) 13:30~16:30

イ 会場

飯塚総合庁舎 2階 大会議室

ウ 内容のまとめ

- ・「福岡県の取り組みについて」  
保健医療介護部健康増進課 ところの健康づくり推進室  
自殺・アルコール問題対策班長 松田 京子
- ・「ひきこもり対策の基礎知識～ひきこもりに関する理解と支援の流れ～」  
精神保健福祉センター 所長 楯林 英晴
- ・福岡県ひきこもり地域支援センターについて  
精神保健福祉センター 相談指導課長 岡島 祐子
- ・「ひきこもり家族支援再考」  
－嘉穂・鞍手保健所ひきこもり相談会から－  
福岡県立大学  
大学院看護学研究科・看護学部 准教授 四戸智昭 先生
- ・「読めばわかる嘉穂・鞍手保健福祉環境事務所のひきこもり体験者活用の歴史」  
家族支援アドバイザー こだま こうじ 氏
- ・意見交換、情報交換

エ 参加状況

参加者数 47名

オ まとめ

例年、精神保健福祉センターにて福岡県域の支援者対象に行っている本会議を、保健所との共催を得て地域で実施した。嘉穂・鞍手保健所では長くひきこもり相談会を実施し、関係機関との連携が図られていた背景があり、多くの機関から参加があり意欲を感じた。今後も各地域で開催し、地域の実情に応じたひきこもり支援体制の充実を図ることが必要である。

4 当事者・家族支援事業

(1) フリースペース(ねすと♪たまゆら)

ア 開催日程 毎月第2・4水曜日 14:00~16:00

イ 参加状況

令和元年度	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計	
	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4	第2	第4		
男性	1	3	1	3	4	2	2	1	1	1	3	2	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	38
女性	0	4	0	1	1	2	2	1	2	3	3	3	1	1	0	1	1	1	1	0	1	0	1	0	30	
合計	1	7	1	4	5	4	4	2	3	4	6	5	2	2	3	2	2	2	2	1	2	1	2	1	68	

## ウ まとめ

- ・昨年度延べ 85 名に対し、今年度は延べ 68 名が参加した。
- ・フリースペースに継続参加し、就職等に移行し卒業となった人が 5 人いた。
- ・コーディネーターとの面談は継続しているがフリースペースにはまだ参加が難しい状態の人がいる。フリースペースへの参加につなげ、コーディネーター以外との交流を増やす事が課題。



## (2) 家族サロン

ア 開催日程 毎月第 3 金曜日 14:00~16:00

## イ 参加状況

本年度は通常集団療法室で行い、4月・5月・12月・3月に和室で実施した。

令和元年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
参加家族	5	2	4	6	3	2	2	3	3	2	2	1	35
人数	5	2	4	7	4	2	2	3	3	2	2	1	37

## ウ まとめ

- ・昨年度に比べ、参加家族、人数は増加した。
- ・他の家族との交流も利用し情報交換を行なうことが目的。
- ・今後も家族の語らいの場として運営していく予定



## 5 情報発信事業

- (1) 福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書の作成・配布 (図1)
- (2) 話してみようと思ったら～ひとりで悩まないで～リーフレット配布 (図2)
- (3) 各事業のチラシ作成・配布
- (4) ホームページの更新
  - ・各種事業の案内
  - ・ひきこもりの方を支えるために (冊子) 掲載 (図3)
  - ・福岡県ひきこもり支援等関係団体ガイドブック掲載 (図4)
  - ・ひきこもり対策連絡調整会議資料 掲載
  - ・ひきこもり支援関係者研修会資料 掲載
  - ・福岡県ひきこもり対策推進事業業務報告書
  - ・県内ひきこもり地域支援センター同士のホームページの相互リンク

図 1

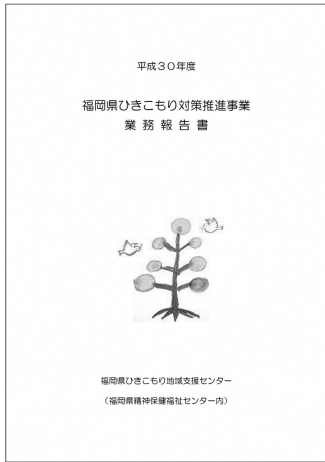
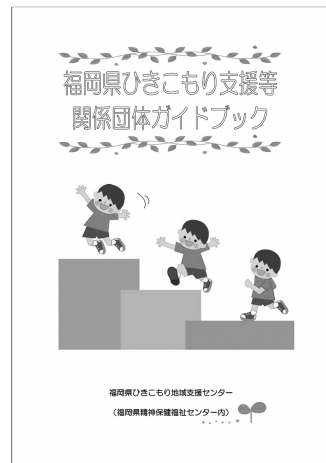


図 2



図 3

図 4



## 6 普及啓発等

他機関からの依頼に応じて、ひきこもり地域支援センターの役割等についての講話等を実施し、普及啓発を行った。

日付	対象機関	内容等	対象者数
8月23日	福岡地区 地域福祉活動職員連絡会	ひきこもり地域支援センターについて等（講話）	20
9月19日	大川市福祉事務所	ひきこもり地域支援センターについて等（講話・事例検討）	22
10月1日	福岡県立大公開講座	ひきこもり地域支援センターについて等（講話）	60
10月13日	日本精神神経科診療所協会	ひきこもり地域支援センターについて（講話・シンポジウム）	50
11月7日	福岡県司法書士会	ひきこもり支援の現状（講話）	30



## 参 考 資 料

- 1 ひきこもり地域支援センター事業案内・・・資料 1  
(17ページ)
- 2 ひきこもり地域支援センター統計資料・・・資料 2  
(18ページ)
- 3 ひきこもり地域支援関係者研修会・・・・・・資料 3  
(24ページ)
- 4 ひきこもり対策連絡調整会議・・・・・・資料 4  
(35ページ)
- 5 ひきこもり対策推進事業関係実施要領等・・・資料 5  
(36ページ)
- 6 各事業チラシ・・・・・・資料 6  
(42ページ)



## 福岡県ひきこもり地域支援センター

## 事業案内

**1 ひきこもりに関する相談を受けています。**

## (1) 電話相談

月～金曜日の9時から17時15分（祝日及び年末年始を除く）実施

## (2) 来所相談

月～金曜日の9時半から16時20分まで概ね1時間程度の面接実施  
（要予約）

## (3) その他関係機関等からの相談や訪問支援等

**2 ひきこもりに関する情報提供及び学習の場を提供します。**

## (1) ひきこもり支援実務者研修会の実施

## (2) ひきこもり家族教室の実施

**3 家族サロンを実施しています。**

家族同士の語りを通して、情報交換等の場を提供しています。

○ 毎月第3金曜日（14時～16時）実施（予約不要）

**4 フリースペース（ねすと♪たまゆら）を実施しています。**

当事者に対する居場所の確保や次の支援へのステップアップを目指します。

なお、利用する場合は事前面接が必要です。

○ 毎月第2・4水曜日（14時～16時）実施（予約不要）

**5 ひきこもり支援関係機関等とのネットワークをつくり、支援体制の充実に努めています。**

## (1) ひきこもり対策連絡調整会議の開催

## (2) 保健福祉環境事務所等との連絡会の開催

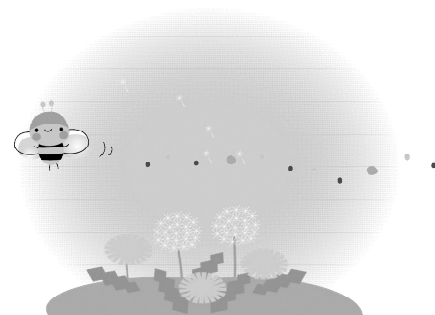
## (3) その他関係機関との実務者連絡会の開催

**6 ひきこもりに関する情報発信をしています。**

## (1) ホームページへひきこもりに関する情報の掲載

## (2) ガイドブックなどの社会資源名簿や広報冊子の作成

## (3) 定期的及び随時の広報活動



## 資料2

### I ひきこもり相談受理状況（R元年度）

福岡県ひきこもり地域支援センター

#### 1 相談件数 (延件数 (実件数))

	電 話		来 所		訪問※1		計	
	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数	実件数	延件数	実件数
件 数	1329	554	400	127	31	16	1760	697

※1 訪問は同行支援等を含む

#### 2 本人について

##### (1) 性別 (実件数)

	電 話	来 所	訪 問	計
男 性	371	94	9	474
女 性	152	32	7	191
不 明	31	1	0	32
計	554	127	16	697

##### (2) 年代 (実件数)

	電 話	来 所	訪 問	計
18歳未満	29	4	0	33
18歳以上～20歳未満	33	6	0	39
20歳代	125	48	7	180
30歳代	105	42	5	152
40歳代	98	19	4	121
50歳以上	62	7	0	69
不明	102	1	0	103
計	554	127	16	697

##### (3) ひきこもりの範囲 (実件数)

	電 話	来 所	訪 問	計
① 自室からほとんど出ない	15	3	0	18
② 自室からは出るが、家からは出ない	88	25	3	116
③ 近所のコンビニなどには出かける	66	27	2	95
④ 自分の趣味に関する用事の時だけ外出する	44	18	4	66
①～④までのいずれにも該当しない	95	51	7	153
不明	246	3	0	249
計	554	127	16	697

#### 3 相談者の内訳 (延人数 (実人数))

	電 話		来所※1		訪問		計	
	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数	延人数	実人数
家族	776	332	263	139	15	9	1054	480
本人	266	107	218	41	27	14	511	162
関係機関	183	60	5	0	2	2	190	62
その他※2	81	40	33	18	2	1	116	59
不明	19	15	0	0	0	0	19	15
計	1325	554	519	198	46	26	1890	778

※1 複数人の来所により、来所実数と異なる。

※2 その他内訳: 親類、友人、知人等からの相談



#### 4 相談内容

##### (1) 電話相談

(延件数/複数回答)

	家族	本人	関係機関	その他※1	不明	合計
対応方法について	163	33	26	27	3	252
精神的な悩み全般	56	34	5	4	2	101
将来(今後)について	46	18	1	5	1	71
精神疾患等の病気について	24	11	6	5	0	46
就労について	21	15	4	2	2	44
就学について	5	1	3	1	0	10
対人関係について	2	6	0	1	0	9
家族関係について	8	4	0	2	0	14
経済問題について	5	2	2	1	0	10
社会資源紹介	14	13	7	4	1	39
問い合わせ	291	66	44	28	10	439
現状報告	178	106	22	23	2	331
予約受付	147	33	2	8	1	191
事例に係る業務連絡	4	0	87	1	0	92
その他	42	13	4	3	1	63
計	1006	355	213	115	23	1712

※1その他内訳: 親類、友人、知人等からの相談

##### (2) 来所相談

(延件数/複数回答)

	家族	本人	関係機関	その他※1	不明	合計
対応方法について	111	13	1	14	0	139
精神的な悩み全般	29	20	0	3	0	52
将来(今後)について	87	65	1	12	0	165
精神疾患等の病気について	10	3	0	1	0	14
就労について	48	61	0	10	0	119
就学について	4	0	0	0	0	4
対人関係について	2	8	0	0	0	10
家族関係について	44	20	1	3	0	68
経済問題について	8	3	2	0	0	13
社会資源紹介	10	6	0	4	0	20
問い合わせ	5	0	0	1	0	6
現状報告	133	169	2	15	0	319
予約受付	0	1	0	0	0	1
事例に係る業務連絡	2	0	0	0	0	2
その他	7	11	0	5	0	23
計	500	380	7	68	0	955

※1その他内訳: 親類、友人、知人等からの相談

5 年代別居住地

(1)電話相談

実件数

	本人住所	18歳未満	18歳以上	20代	30代	40代	50代以上	不明	合計
政令都市等	北九州市	0	0	2	1	3	4	2	12
	福岡市	3	10	28	31	20	16	37	145
	久留米市	8	2	7	5	6	0	2	30
筑紫	筑紫野市	3	1	10	8	7	3	3	35
	春日市	1	1	14	10	4	4	4	38
	大野城市	0	1	10	2	3	6	0	22
	那珂川市	0	0	4	1	1	5	0	11
	太宰府市	1	3	6	5	6	1	2	24
	築上町	0	0	0	0	1	0	0	1
京築	行橋市	1	0	1	0	0	0	0	2
	荏田町	0	0	0	1	2	0	0	3
	みやこ町	1	0	0	0	0	0	0	1
	豊前市	0	0	1	0	0	1	0	2
	吉富町	0	0	0	0	0	1	0	1
	上毛町	0	1	0	0	1	0	0	2
	鞍手町	0	0	0	0	1	0	0	1
嘉穂・鞍手	直方市	0	1	0	0	1	0	2	4
	嘉麻市	0	0	1	0	3	1	0	5
	飯塚市	0	0	1	1	3	2	0	7
	宮若市	0	1	0	0	0	0	0	1
	小竹町	0	0	0	0	0	0	0	0
	桂川町	0	1	0	0	0	0	0	1
	糸島	糸島市	0	0	4	4	4	1	0
粕屋	志免町	0	0	1	0	2	0	1	4
	宇美町	0	1	0	3	1	0	0	5
	須恵町	1	1	1	1	0	0	0	4
	新宮市	0	0	4	3	1	0	0	8
	粕屋町	0	0	4	1	0	0	0	5
	古賀市	0	0	1	2	2	0	1	6
	久山町	0	0	0	0	0	0	0	0
	篠栗町	0	0	0	0	0	0	0	0
宗像・遠賀	福津市	1	0	0	4	1	1	0	7
	岡垣町	0	0	0	0	2	0	0	2
	宗像市	1	0	3	5	0	1	1	11
	中間市	0	0	1	1	1	0	0	3
	芦屋町	0	0	0	0	0	0	0	0
	水巻町	0	0	1	1	0	0	0	2
	遠賀町	0	0	1	0	0	0	0	1
田川	田川市	0	0	2	1	0	1	0	4
	香春町	0	0	0	0	2	0	0	2
	福智町	0	0	0	0	0	0	0	0
	糸田町	0	0	0	0	0	0	0	0
	赤村	0	0	0	0	0	0	0	0
	大任町	0	0	0	0	0	0	0	0
	川崎町	0	0	0	0	0	0	0	0
	添田町	0	0	0	0	0	0	0	0
北筑後	朝倉市	0	3	1	0	1	0	0	5
	筑前町	0	1	0	1	1	0	0	3
	東峰村	0	1	1	0	0	0	0	2
	うきは市	0	0	0	1	0	0	1	2
	太刀洗町	1	0	1	0	0	0	0	2
	小郡市	1	0	0	2	1	2	0	6
南筑後	柳川市	0	1	0	2	1	1	0	5
	八女市	1	0	1	1	2	1	0	6
	みやま市	0	1	1	2	1	0	1	6
	大川市	0	0	0	1	0	0	0	1
	筑後市	0	0	1	0	0	0	0	1
	広川町	0	0	0	0	0	1	0	1
	大木町	0	0	0	0	0	0	0	0
大牟田	大牟田市	0	0	3	0	0	2	1	6
その他	○他県	1	0	4	0	2	3	4	14
不明	不明	4	2	4	4	11	4	40	69
合計		29	33	125	105	98	62	102	554

## (2) 来所相談

	本人住所	18歳未満	18歳以上	20代	30代	40代	50代以上	不明	合計
政令都市等	北九州市	0	0	0	0	0	0	0	0
	福岡市	1	0	2	3	0	0	0	6
	久留米市	1	0	3	1	0	0	0	5
筑紫	筑紫野市	0	1	6	7	3	1	1	19
	春日市	0	1	7	6	2	2	0	18
	大野城市	0	1	6	4	3	2	0	16
	那珂川市	0	0	4	0	1	0	0	5
	太宰府市	0	0	4	3	3	0	0	10
	筑上町	0	0	0	0	1	0	0	1
京築	行橋市	0	0	1	0	0	0	0	1
	苅田町	0	0	0	0	0	0	0	0
	みやこ町	0	0	0	0	0	0	0	0
	豊前市	0	0	0	0	0	0	0	0
	吉富町	0	0	0	0	0	0	0	0
	上毛町	0	0	0	0	0	0	0	0
	鞍手町	0	0	0	0	1	0	0	1
嘉穂・鞍手	直方市	0	0	0	0	0	0	0	0
	嘉麻市	0	0	0	0	0	0	0	0
	飯塚市	0	0	0	0	0	1	0	1
	宮若市	0	0	0	0	0	0	0	0
	小竹町	0	0	0	0	0	0	0	0
	桂川町	0	0	0	0	0	0	0	0
糸島	糸島市	0	0	2	4	1	0	0	7
粕屋	志免町	0	0	1	0	1	0	0	2
	宇美町	0	1	1	3	0	0	0	5
	須恵町	0	0	1	1	0	0	0	2
	新宮市	0	0	2	3	0	0	0	5
	粕屋町	0	0	1	1	0	0	0	2
	古賀市	0	0	1	1	1	0	0	3
	久山町	0	0	0	0	0	0	0	0
	篠栗町	0	0	0	0	0	0	0	0
宗像・遠賀	福津市	1	0	0	1	0	0	0	2
	岡垣町	0	0	0	0	0	0	0	0
	宗像市	0	0	4	1	0	1	0	6
	中間市	0	0	0	1	0	0	0	1
	芦屋町	0	0	0	0	0	0	0	0
	水巻町	0	0	0	0	0	0	0	0
	遠賀町	0	0	0	0	0	0	0	0
田川	田川市	0	0	0	0	0	0	0	0
	香春町	0	0	0	0	1	0	0	1
	福智町	0	0	0	0	0	0	0	0
	糸田町	0	0	0	0	0	0	0	0
	赤村	0	0	0	0	0	0	0	0
	大任町	0	0	0	0	0	0	0	0
	川崎町	0	0	0	0	0	0	0	0
	添田町	0	0	0	0	0	0	0	0
北筑後	朝倉市	0	1	0	0	0	0	0	1
	筑前町	0	0	0	1	0	0	0	1
	東峰村	0	0	0	0	0	0	0	0
	うきは市	0	0	0	0	0	0	0	0
	太刀洗町	1	0	0	0	0	0	0	1
	小郡市	0	0	0	0	1	0	0	1
南筑後	柳川市	0	0	0	0	0	0	0	0
	八女市	0	0	1	0	0	0	0	1
	みやま市	0	1	0	0	0	0	0	1
	大川市	0	0	0	0	0	0	0	0
	筑後市	0	0	0	0	0	0	0	0
	広川町	0	0	0	0	0	0	0	0
大木町	0	0	0	0	0	0	0	0	
大牟田	大牟田市	0	0	1	1	0	0	0	2
その他	○他県	0	0	0	0	0	0	0	0
不明	不明	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		4	6	48	42	19	7	1	127

## Ⅱ ひきこもり相談の本人状況（R元年度）

福岡県ひきこもり地域支援センター

### 1 本人について

(1) ひきこもり始めた年代 (実件数)

	電話	来所	訪問
18歳未満	62	20	4
18歳以上	48	24	3
20代	131	49	6
30代	48	25	2
40代	23	5	1
50代以上	15	1	0
不明	227	3	0
合計	554	127	16

(2) ひきこもっている期間 (実件数)

	電話	来所	訪問
6か月未満	41	11	0
6か月～1年	35	9	0
1年～3年	75	33	1
3年～5年	32	16	4
5年～7年	22	8	1
7年～9年	23	11	3
10年以上	116	36	7
不明	210	3	0
合計	554	127	16

(3) 最終学歴 (実件数)

	電話	来所	訪問
中学在学中	10	0	0
中学卒業	17	4	2
高校在学中	22	5	0
高校卒業	42	29	4
高校中退	20	11	2
短期大学在学中	4	1	0
短期大学卒業	6	2	0
短期大学中退	0	0	0
大学在学中	18	6	0
大学卒業	57	27	3
大学中退	33	21	3
大学院在学中	0	0	0
大学院卒業	2	1	0
大学院中退	4	0	0
専門在学中	0	0	0
専門卒業	11	10	2
専門中退	4	4	0
その他	1	0	0
不明	303	6	0
合計	554	127	16

(4) ひきこもりのきっかけ (実件数)

	電話	来所	訪問
職場になじめなかった	65	16	3
病気	92	12	0
就職活動がうまくいかなかった	30	18	3
不登校	55	22	2
人間関係がうまくいかなかった	21	11	0
大学になじめなかった	22	10	2
受験に失敗した	4	5	0
その他	44	17	4
不明	221	16	2
合計	554	127	16

## (5) 援助方針とひきこもりの要因

(実件数)

		来所	訪問	%
第1群	一般的な精神科医療の対象となる群。薬物療法などの生物学的治療が必要とされるケース。	19	0	13.29%
第2群	何らかの発達障害を認め、発達臨床や発達支援の観点が必要になるケース。	11	1	8.39%
第3群	主診断や副診断のいずれかにパーソナリティ障害(傾向)が含まれ、個人精神療法や集団療法、心理社会的支援が中心となるケース。	17	2	13.29%
不明		80	13	65.03%
合計		127	16	100.00%

## (6) 来所者の診断別件数

(実件数)

		診断名	来所	訪問
診断あり	第1群	統合失調症	2	0
		気分障害	8	0
		不安障害	4	0
		その他	8	2
	第2群	広汎性発達障害	2	0
		精神遅滞等	1	1
		その他	5	0
	第3群	パーソナリティ障害	0	0
		身体表現性障害	0	0
		その他	8	1
	診断なし		89	12
	合計		127	16

※割合(%)は「診断あり」のみとして、「診断なし」を除く。

## 3 連携及び、紹介機関

(実件数/複数回答)

	電話	来所	訪問
保健福祉環境事務所	21	4	0
精神保健福祉センター	16	0	0
他自治体ひきこもりセンター	101	8	0
児童相談所	2	0	0
発達障害者支援センター	4	4	0
ひきこもり民間支援団体	11	5	0
労働行政関係	20	20	5
臨床心理センター	5	0	0
医療機関	72	30	1
社会福祉関係	14	1	0
学校教育関係	6	1	0
司法・警察関係	3	1	0
市町村窓口	14	5	0
自立相談支援機関	21	12	3
その他	5	0	1
合計	315	91	10

※労働行政関係に若者サポートステーション、ハローワーク等含む。

※社会福祉関係に障害者自立支援関連施設、障害者雇用促進関連施設等含む。

## 2 相談経路

(実件数)

	電話	来所	訪問
保健福祉環境事務所	6	4	1
精神保健福祉センター	4	0	0
市町村・行政関係	30	16	1
他自治体ひきこもりセンター	8	3	1
児童相談所	2	2	0
ひきこもり民間支援団体	0	1	0
労働行政関係	3	1	0
臨床心理センター	0	0	0
医療機関	7	4	0
社会福祉関係	3	0	0
学校教育関係	4	0	0
司法警察関係	2	0	0
訪問看護	0	0	0
新聞・ラジオ・テレビ	7	3	0
チラシ・リーフレット	15	4	0
家族・友人に勧められて	14	7	1
ホームページ	75	45	1
当センター	46	23	11
その他	3	1	0
不明	325	13	0
	554	127	16

## 4 転帰

(実件数)

	総数
初回終了	36
センターにて継続	91

# 令和元年度

## ひきこもり支援関係者研修会

日 時 : 令和元年 7月11日 (木)  
14:00~16:00 (受付: 13:30~)

会 場 : 福岡県精神保健福祉センター 2階 研修室

### プログラム

14:00	開 会 あいさつ 福岡県精神保健福祉センター所長
14:10~	《 講 演 》 演 題 中高年のひきこもりについて考える ~内閣府調査『生活状況に関する調査報告書』 から見えたこと~ 講 師 久留米大学 文学部社会福祉学科 教授 門田 光司 先生
15:40~	質疑応答
16:00	アンケート記入 閉会 ※アンケートにご協力下さいますようお願いいたします

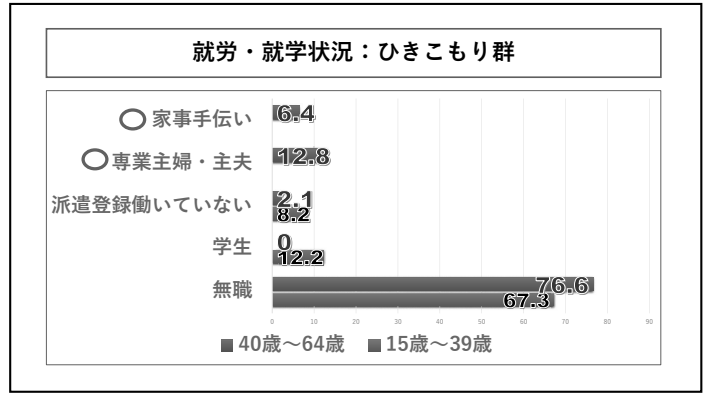
## 中高年のひきこもりについて考える

～内閣府『生活状況に関する調査報告書』から見たこと～

- 久留米大学・教授
- 福岡県スクールソーシャルワーカー協会・会長
- 福岡県・福岡市・久留米市・広島市・熊本県菊陽町教育委員会  
スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー

門田 光司

1



4

内閣府政策統括官(共生社会政策担当)  
「若者の生活に関する調査(ひきこもりに関する実態調査)報告書」(2016年)

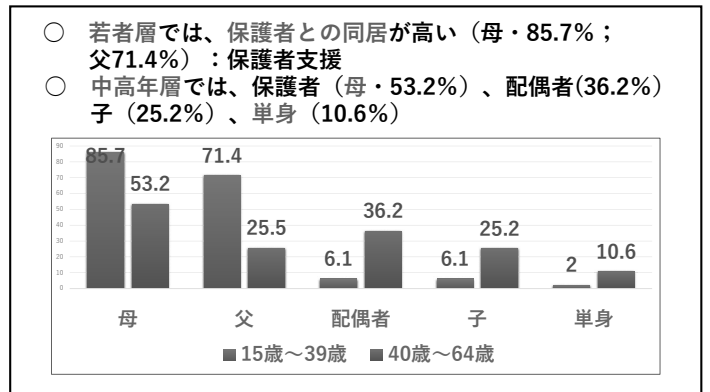
### 広義のひきこもり群

「ふだんどのくらい外出しますか。」

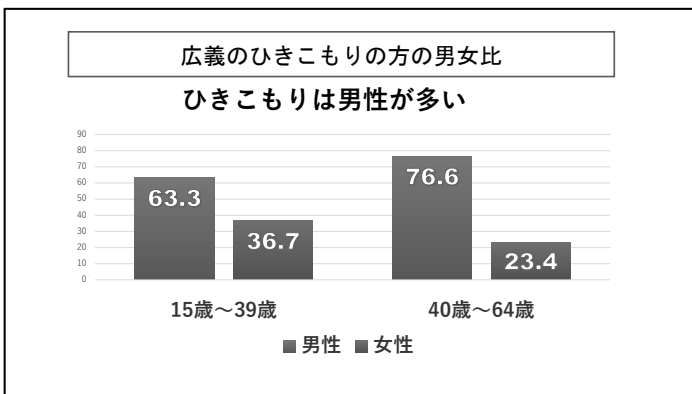
- 趣味の用事のときだけ外出する (準ひきこもり)
- 近所のコンビニなどには出かける
- 自室からは出るが、家からは出ない
- 自室からほとんど出ない (狭義のひきこもり)

「現在の状態となってどのくらい経ちますか。」  
について、「6か月以上」と回答した者

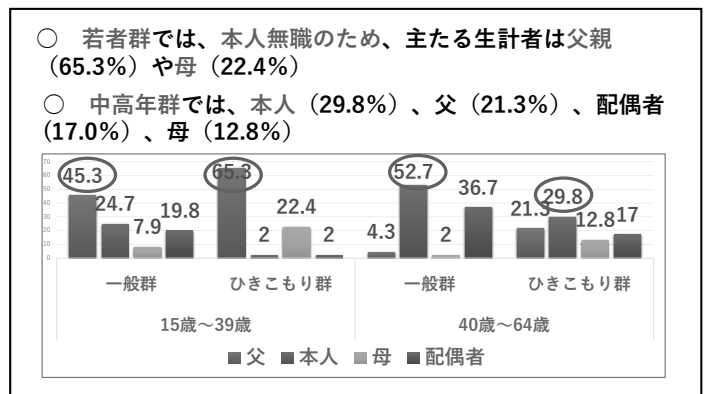
2



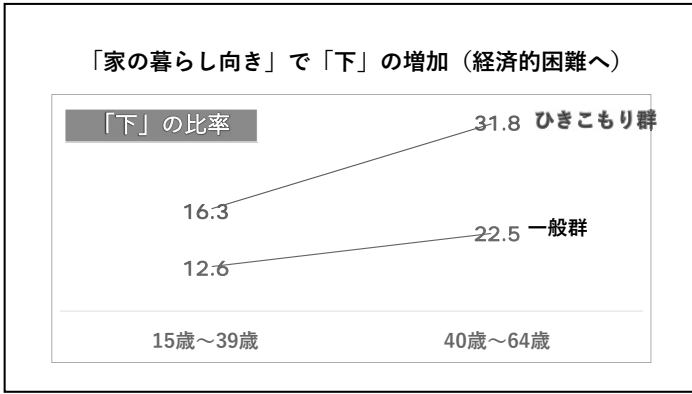
5



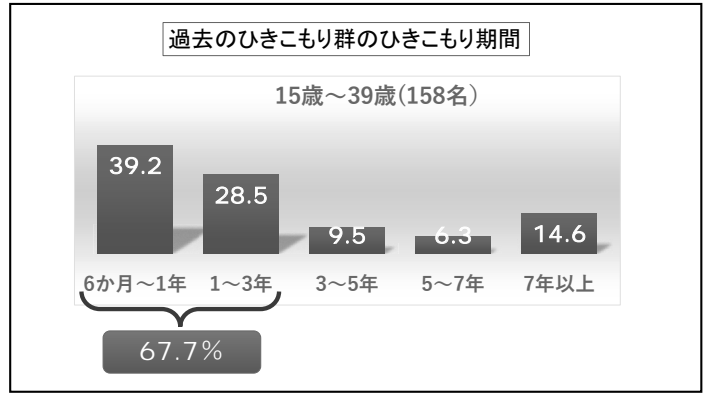
3



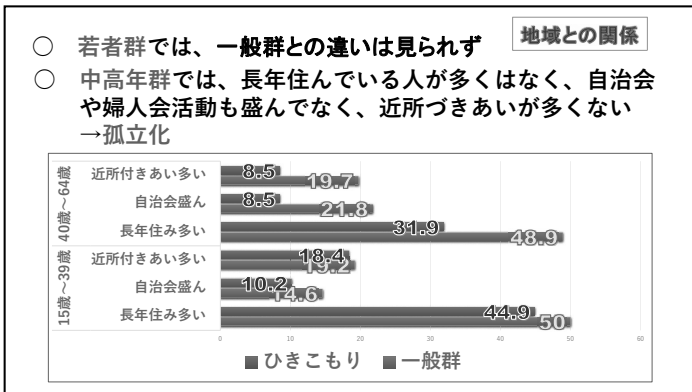
6



7



10

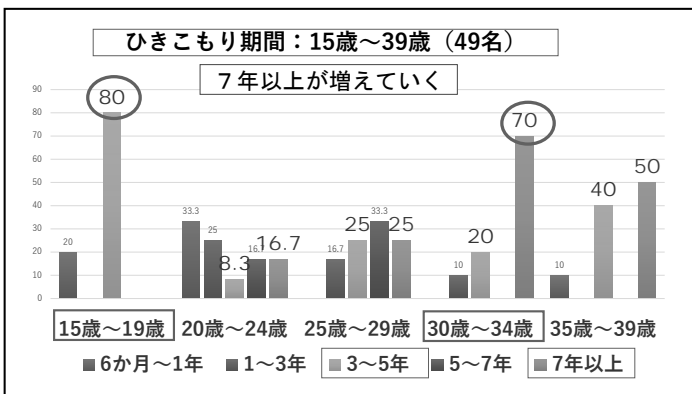


8

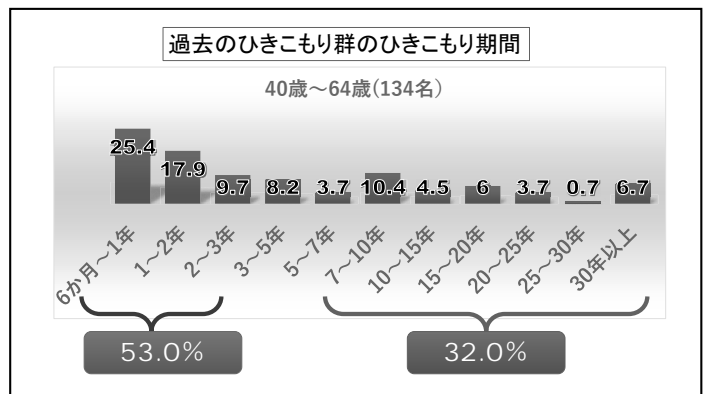
### ひきこもり期間：40歳～64歳（47名）

%	6か月～1年	1～2年	2～3年	3～5年	5～7年	7～10年	10～15年	15～20年	20～25年	25～30年	30年以上
40歳～44歳 (12)		8.3 (40歳)		16.7		16.7	16.7	16.7	25 (20歳)		
45歳～49歳 (6)				50 (40歳)		16.7		16.7		16.7 (30歳)	
50歳～54歳 (7)			28.6 (50歳)	14.3	14.3		14.3 (35歳)	14.3 (30歳)			14.3 (20歳)
55歳～59歳 (10)	10 (55歳)	30		10		10 (45歳)		10	10		20 (25歳)
60歳～64歳 (12)	16.7 (60歳)	25	8.3	25 (55歳)	8.3	8.3	8.3 (50歳)				

11

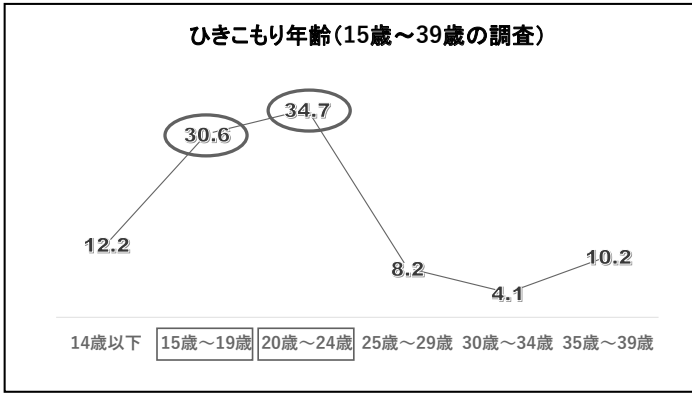


9

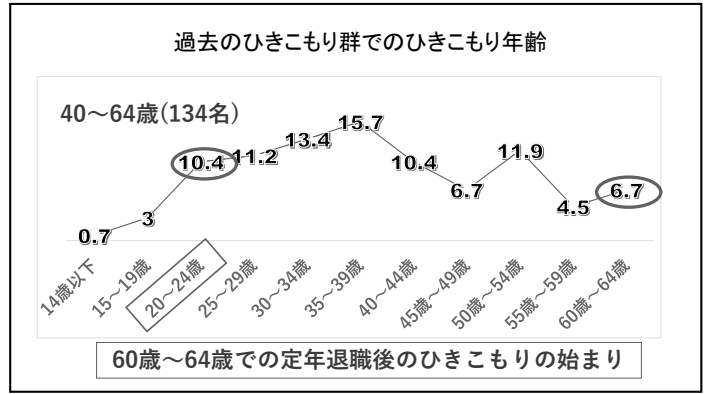


12

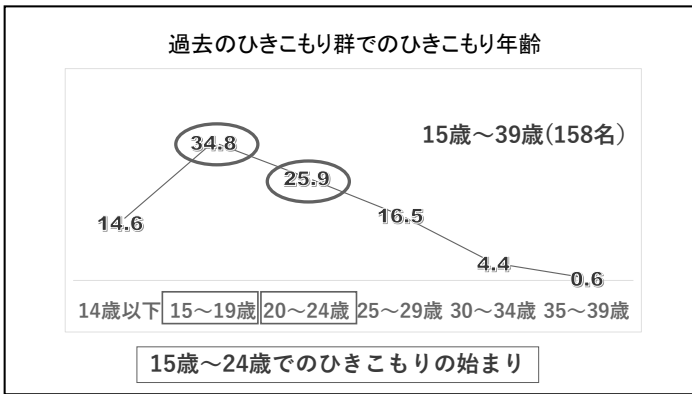




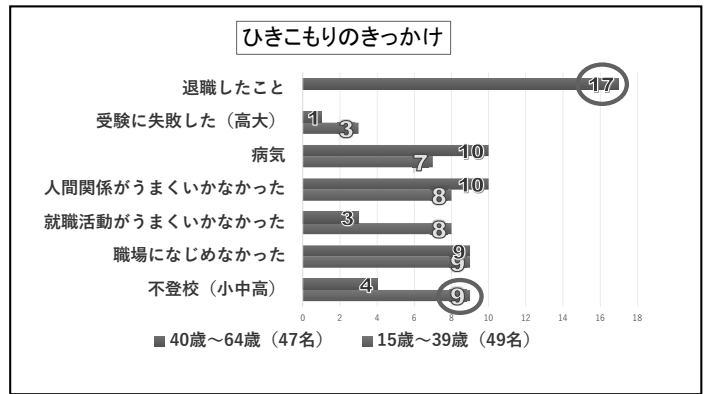
13



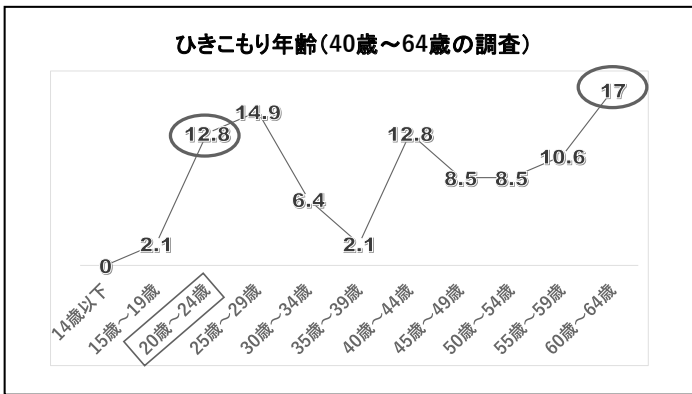
16



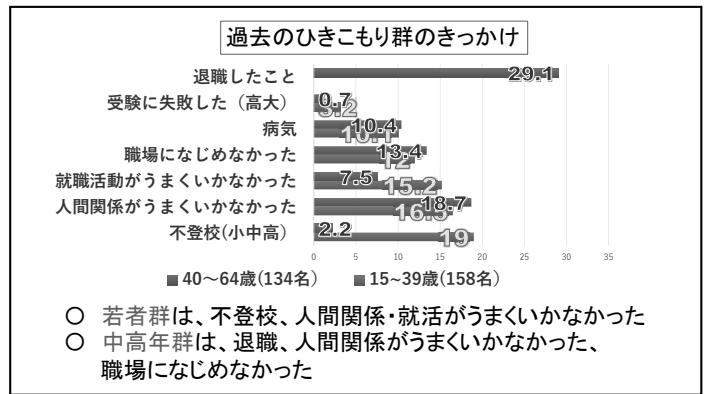
14



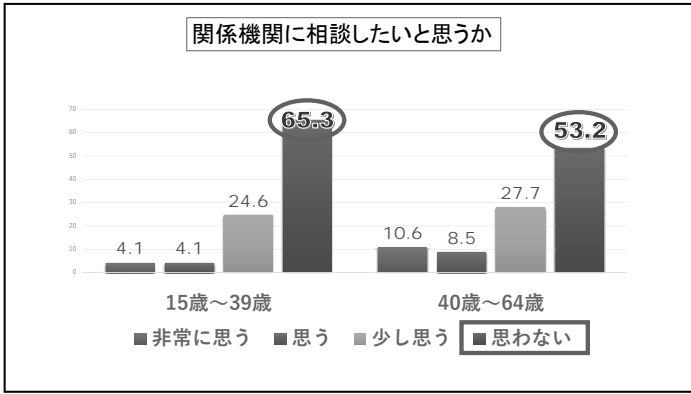
17



15



18



19

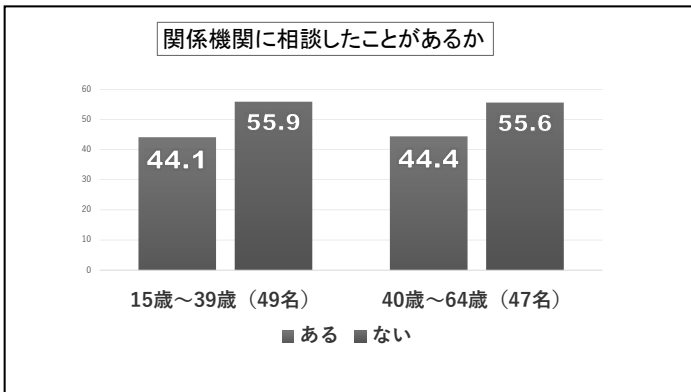
### 相談機関に相談した結果

<15～39歳>  
 「よかった」(12名)、「よくなかった」(3名)、「どちらでもない」(3名)

○「よかった」こと：「ひきこもりをなるべく早くやめたいと思った」「自分のことをより理解できるようになり、また同じように上手いかない人達と話すことで、辛い気持ちを軽減できて良かったと思っています」「相談したら、作業所を紹介してもらえたので、相談して良かったと思う」

○「よくなかった」こと：「もう少し助言が欲しい」「対応が遅い」

22

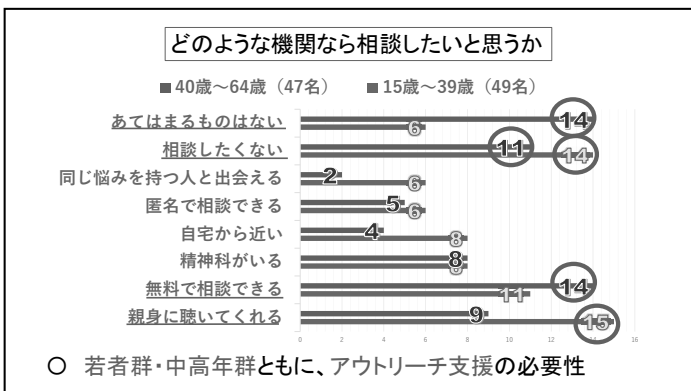


20

### 相談機関に相談した結果

<40歳～64歳>  
 「カウンセラーとの相性が悪く、かえってこういう機関に不信感を持ってしまった。ただ野球などをして運動ができたのはよかった。その後いろいろな体験はしたけど、変わる意欲や治療意欲が乏しく、勝手にこの機関をやめてしまったから、どこにも相談したことはない」「足が不自由で年令も高め。なかなか出来る仕事はみつかりません」「人間関係の難しさに、病気を患ったのだが、精神科医からだされた薬や、診療内容があわず、行くのをやめてしまった。その後どこへ相談していいかわからず、とりあえず、心の問題と自分で思い、自力でなんとかしようとして動いてみるも、上手くいっていない。ただ、『Q28』のようなところに相談ができるのがあると知ったので、聞いてみようと思う」「少しずつ良くなりましたが、先生が替わり合わないと思いやめました」

23



21

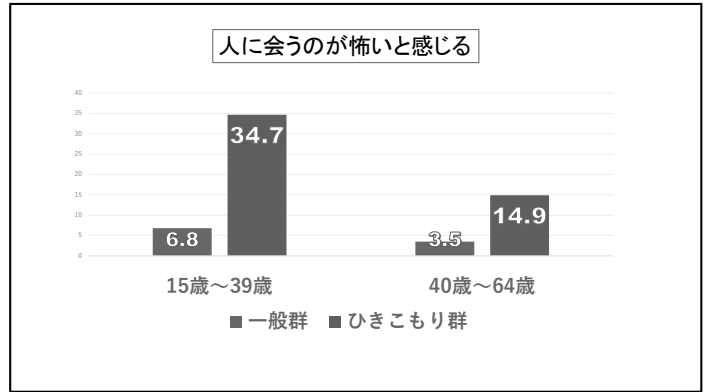
### ひきこもりの状態でなくなったきっかけや役立ったこと(15歳～39歳)

入学 進学	「フリースクール的な学校に通い、友人やバイト、そして人間関係が上手くいくようになったから」(30～34歳女性) 「このままではいけないと思い、自分で勉強をして学校で資格を取って、就職しようと思ったから」(目標)(20～24歳男性)
就職 転職	「自分にあった職につけたこと。自分を見つめ直し足りなかったことに気付き、やりたいことが少しずつ見えてきたこと」(20～24歳男性) 「きっかけは転職したことだと感じます。それまでは前の職場で経験した嫌な事がトラウマとなり、なかなか前に進めない状況が続きました。時間が解決したこともありすが、家族や周りの友達と関りながら、少しずつ社会復帰できたのだと思います」(30～34歳女性)
友人 知人	「友達が遊びに来てくれたこと」(15歳～19歳男性) 「身近な人に自分の気持ちをぶつかけたり、聞いてもらったり、心配してもらったこと。同じような経験をしている人達と知り合う事ができたこと」(25～29歳女性)

24

ひきこもりの状態でなくなったきっかけや役立ったこと(15歳～39歳)	
家族・家庭	「家族が頻繁に外へ連れ出してくれたので、外への壁を厚く感じる事がなく、環境が変わったのをきっかけに、また学校へ通ったりすることが出来る様になりました」(30～34歳女性)
医療・支援機関	「医療機関、地域活動支援センターと家庭との連携」(30～34歳女性) 「病院の思春期外来に相談してみたこと、親友に相談してみたこと」(15歳～19歳男性)
自分の成長	「年齢を重ねて精神的に安定したため」(30～34歳男性) 「特別な理由はなく、時間の経過により意識が変化していた」(35歳～39歳男性)

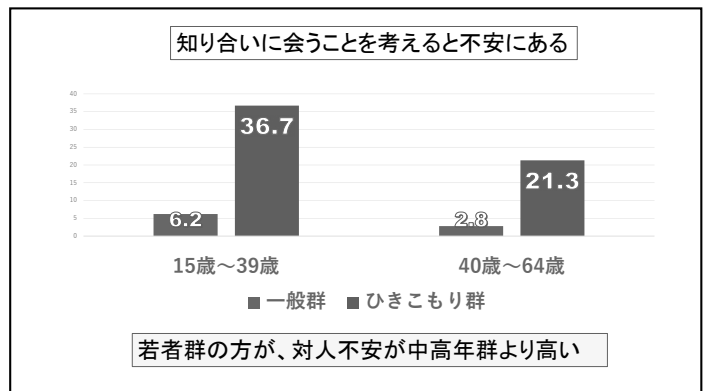
25



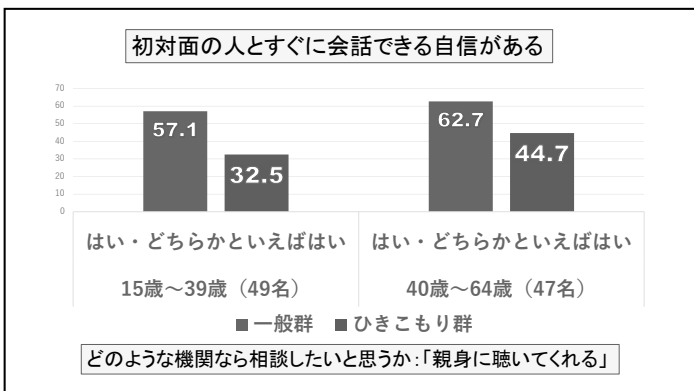
28

ひきこもりの状態でなくなったきっかけや役立ったこと(40歳～64歳)	
就職・転職	「就職したこと」「粘り強く職安で自分が出来そうな仕事を探したからだと思う」「原因となった会社を退職したこと。また、退職した結果他社から自分を必要としていただいた事。退職等を受け入れてくれた家族」「資格を取得し、就職をした」
家族・友人	「友達や家族のたすけ」「職場でのプレッシャーからうつ病になった。家族の協力で少しずつ社会になじめるようになり自分が親になった事で立ち直れた様に思う。家族に感謝しかない」「あせらないで時間をゆっくりすごせたこと。気にしてくれる家族友だちが、ときどき声をかけてくれたこと。体調は悪かったが、気持ちは元気になったら、いろんなことをしようと思っていたこと」「娘が食事や買物など、外出する時、よく誘ってくれる」「きっかけは、結婚したから」
医療	「病気が回復したから(治ってはいないが)、仕事が決まったから」
自身の変化	「コンビニ、スーパーなどに出かけられるようになったら、レジのかたに、一言声を出して話しかけるように努力した」「人との交流で、回復した」「社会と関わりたいと思った。毎日が退くに感じた」
趣味	「友達に趣味に誘われて出かけるようになった」「病院のデイケア、趣味」

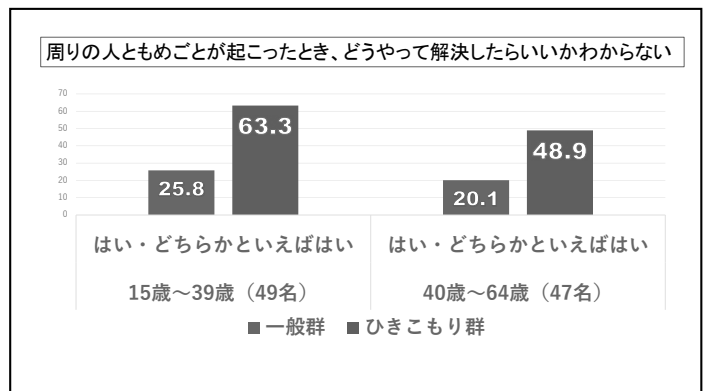
26



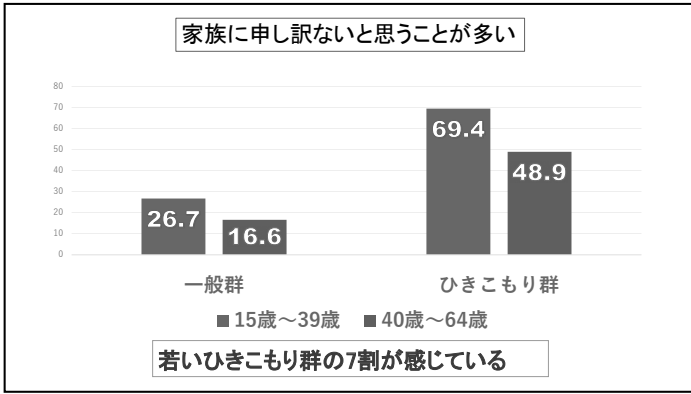
29



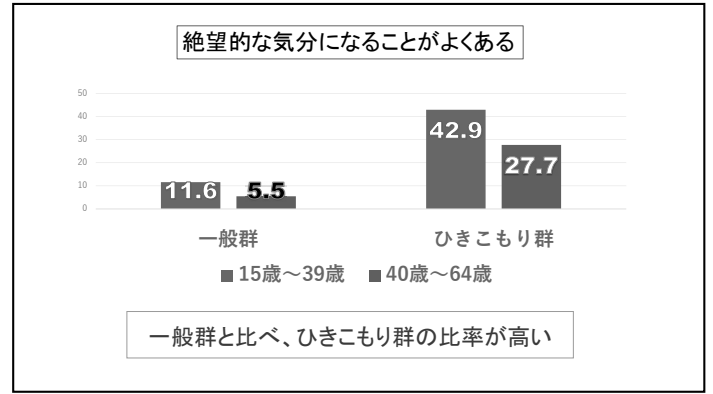
27



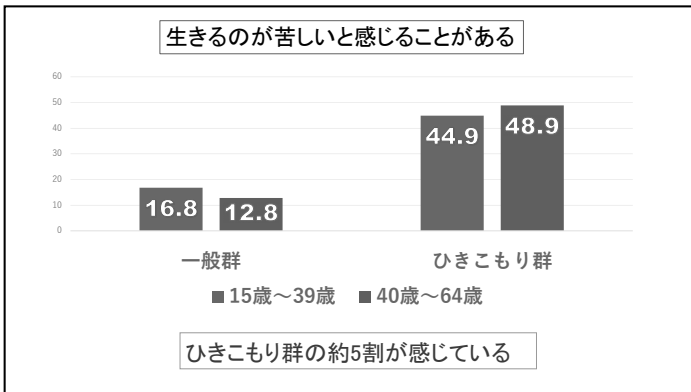
30



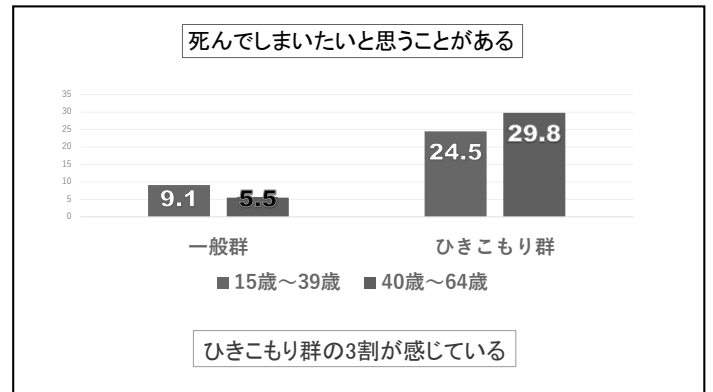
31



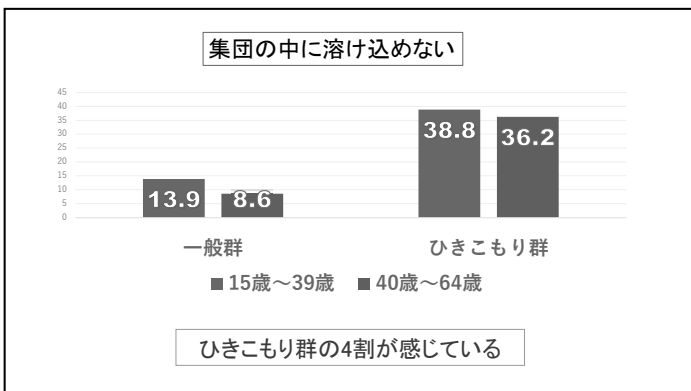
34



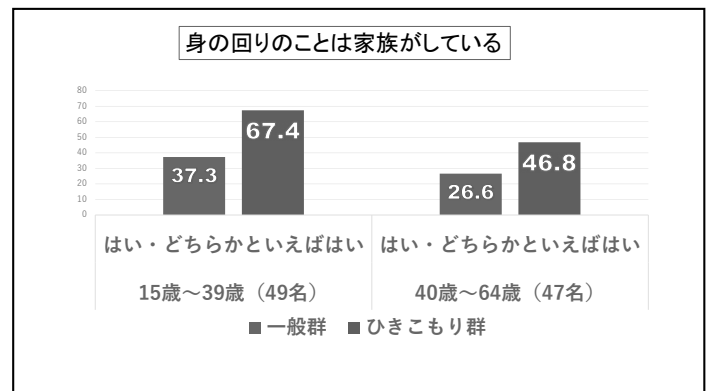
32



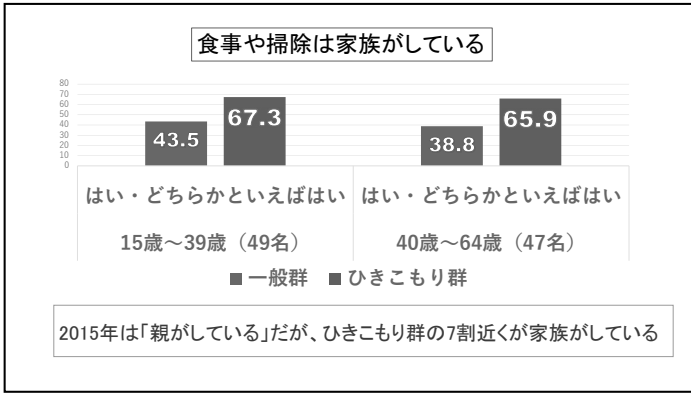
35



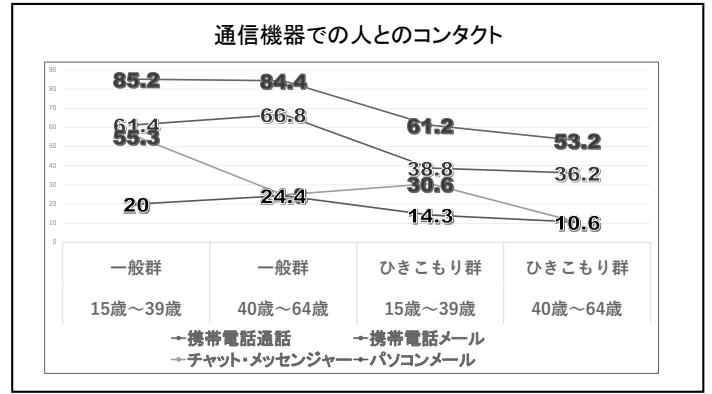
33



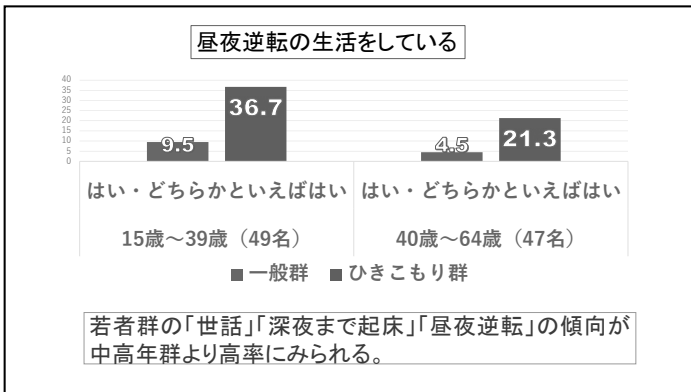
36



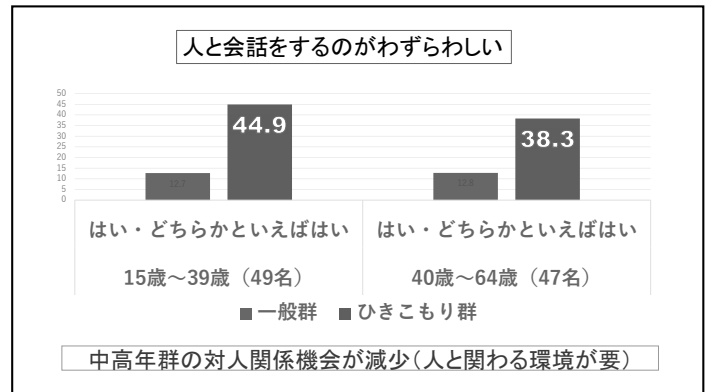
37



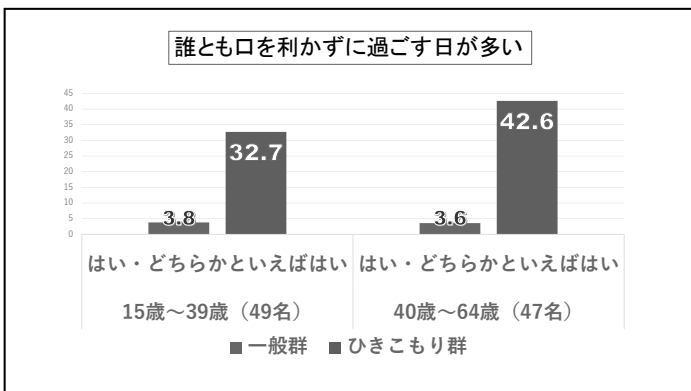
40



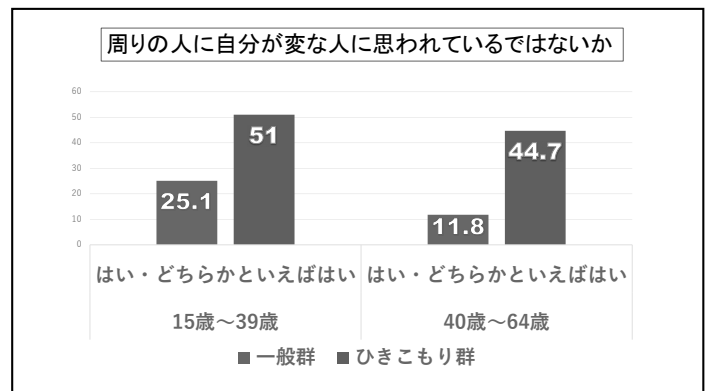
38



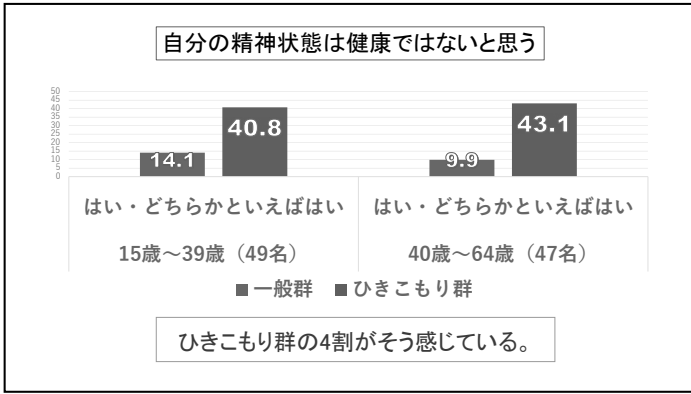
41



39



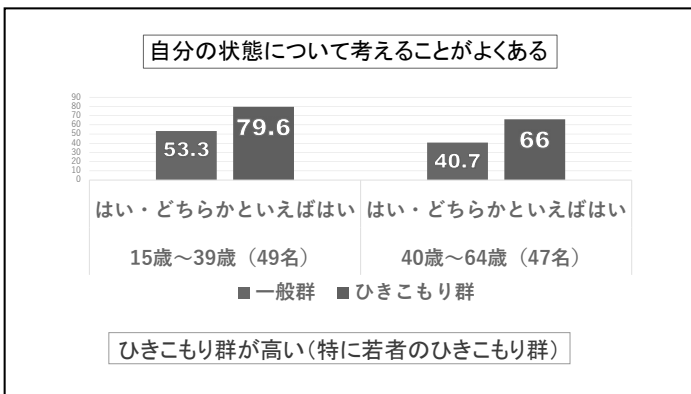
42



43

- ### <40歳～64歳のひきこもり実態調査から>
- 1) 「同居者」では、母 (53.2%)、配偶者 (36.2%)、父 (25.5%)、子 (25.5%)、同居者いない (10.6% : 5人)
  - 2) 「生活保護」が8.5% (H27:4.1%)が高い(総数0.8%の約5倍)  
「暮らし向き」の「下」が31.9% (H27:22.5%)
  - 3) 「通院・入院経験のある病気」では、「精神的な病気」(31.9%)  
(35歳以下ではH27で18.4%. H21は37.3%)
  - 4) 「35歳以上の退職」(53.2%) : 「仕事がかきかけ」(16名 ; 66.7%)  
「ニート」(21.3%) : 「仕事がかきかけ」(12.5% ; 3名)
  - 5) SNSの利用が低い比率 (35歳以下と比較して)
  - 6) 各年齢でひきこもりの方が15%～25%範囲で出現する
  - 7) 「60～64歳」(8名いる)

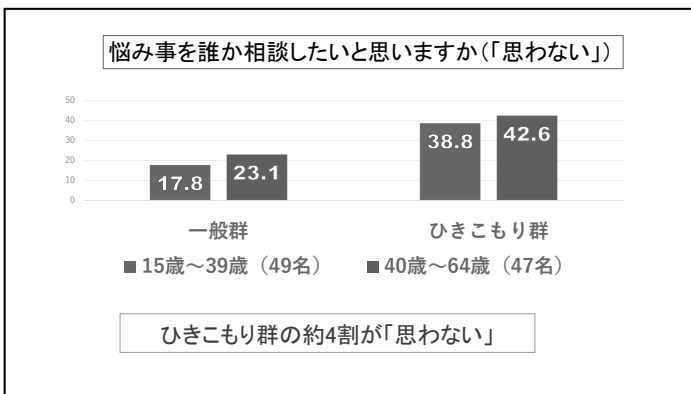
46



44

- 8) 「専業主婦」が6名、「家事手伝い」で3名がいた。
  - 9) ひきこもりのきっかけは、「退職したこと」「人間関係がうまくいかなかったこと」「職場になじめなかったこと」「病気」
  - 10) 「60歳～64歳」(8名いる)は、「退職したこと」(定年退職後の課題)
  - 11) 「過去の知り合いや縁者に信頼できる人はいない」(高率)  
「自分の精神状態は健康できないと思う」(高率)  
「自分の今の状態について考えることがよくある」(高率)  
「誰にも相談したくない」(44.7%)
- ### <求められる施策について>
- 1) 経済的生活支援
  - 2) 就労支援  
「就職」では、「希望する」(34.8%)、「希望しない」(60.9%)  
「就職活動」では、「している」(13.0%)、「していない」(84.8%)
  - 3) 離職に向けた相談支援体制 (定年退職後への移行も含め)
  - 4) アウトリーチ支援

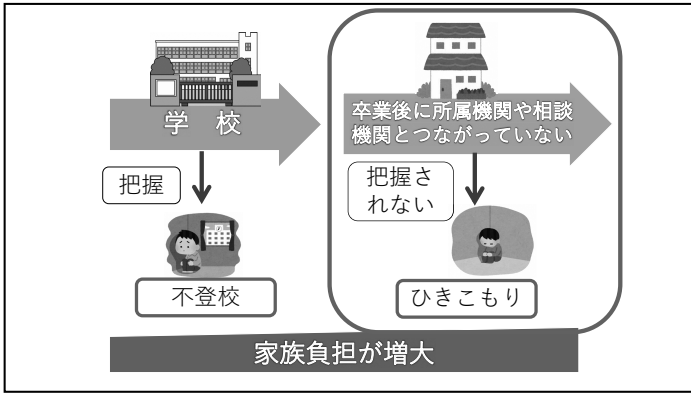
47



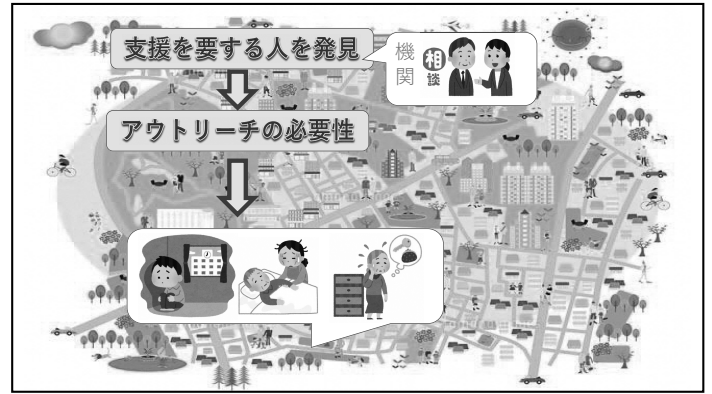
45

- ### 支援のあり方についての意見 (本人票)
- 「同年代で就職がうまく行かず、そのままの人が多くと思う。40代でも再スタートできるしくみを作ってほしい」  
「支援する機関があることを知らない人も多くと思う。そういう支援機関についての宣伝も大切だと思う」  
「支援していただけるのであれば、その苦しい気持ちを受けとめて、受けながさず一緒に克服できるように相談できる機関があれば良い」  
「自宅以外での自分の居場所をつくるのが難しい方も多くいると思うので、在宅でできる仕事の紹介などについても充実させる」  
「いろいろなサポート(メンタル・就労)。外に出ていられる場所」  
「人とのつながりを求めながらも、過去の経験等から一步を踏み出せない人がある。そんな人への出会うの機会を創出して下さい」  
「アウトリーチが必要。細く長く支援する体制づくりをしてほしい。担当者がころころ変わる事のないよう、信頼関係を築くためにもある一定期間専従できる職員配置が必要ではないでしょうか」

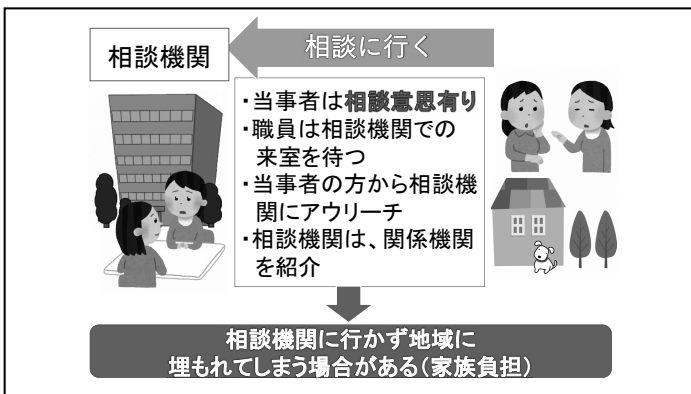
48



49



52



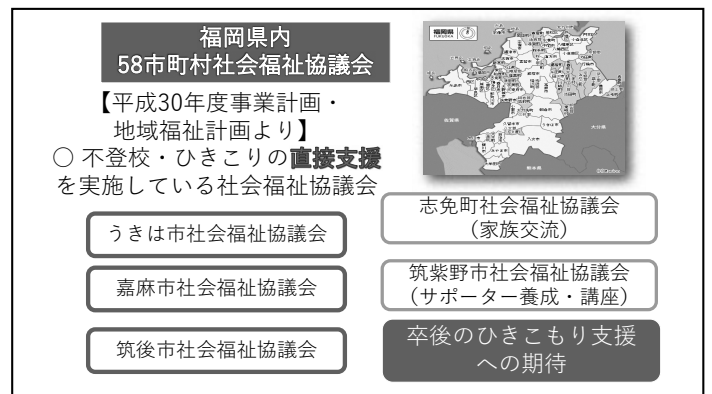
50



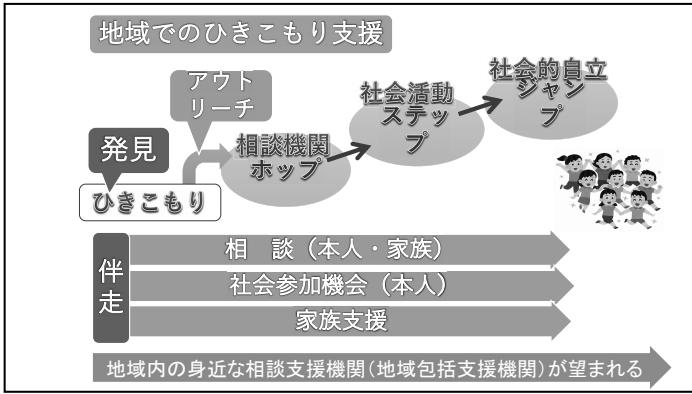
53



51



54





令和元年度福岡県ひきこもり対策連絡調整会議 式次第

日 時：令和2年2月13日（木）15：00～16：30

場 所：福岡県精神保健福祉センター 研修室

- 1 あいさつ
- 2 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議設置要綱の改正について
- 3 委員紹介
- 4 議題
  - (1) 報告「福岡県の今後のひきこもり対策について」（資料1）
  - (2) 各ひきこもり地域支援センターの取り組み状況（資料2）
  - (3) ひきこもりに関する情報提供
    - ・福岡県若者自立相談窓口（資料3）
    - ・自立相談支援窓口（保護・援護課）（資料4）
    - ・就職氷河期世代活躍支援ふくおかプラットフォーム（労働政策課）（資料5）
  - (4) 意見交換
- 5 その他

福岡県ひきこもり対策連絡調整会議設置要綱

(設置目的)

第1条

社会的ひきこもり状態にある本人又は家族等（以下「対象者」という。）からの相談内容等に応じた適切な支援を行うことができるよう、医療・福祉・教育・労働等の関係機関からなる連絡調整会議を設置し、情報交換等各機関間で恒常的な連携が確保できることを目的とする。

(検討事項)

第2条 連絡調整会議は次の各号に掲げる事項を検討する。

- (1) ひきこもり支援ネットワークの構築に関する事
- (2) 対象者に対する適切な相談体制のあり方に関する事
- (3) ひきこもり支援関係機関職員の資質向上に関する事
- (4) ひきこもり対策に関する情報発信のあり方に関する事
- (5) その他ひきこもり対策に関する事

(委員構成)

第3条 委員の数は、20名以内とする。

- (1) 連絡調整会議には会長及び副会長を置く。
- (2) 会長及び副会長は委員の互選により選出する。
- (3) 会長は会務を総理し、連絡調整会議を代表する。

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- (1) 委員は、再任されることができる。

(会議)

第5条 議長は会長が務めるものとする。

- (1) 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。
- (2) 会長が認めた者は、オブザーバーとして連絡調整会議に参加することができるものとする。

(事務局)

第6条 連絡調整会議の事務局は、福岡県精神保健福祉センターに置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は会長が別に定める。

この要綱は、平成22年5月24日から施行する。

この要綱は、平成26年7月16日から施行する。

この要綱は、令和2年2月13日から施行する。

## 令和元年度ひきこもり地域支援センター実務者等連絡会開催要領

### 1 目的

県内のひきこもりセンターにおける実務者等の連携を深めることにより、成人期のひきこもり状態にある本人やその家族への支援及びひきこもり対策推進体制の充実・強化を図ることを目的とする。

### 2 主催

福岡県ひきこもり地域支援センター（福岡県精神保健福祉センター）

### 3 連絡会構成員

北九州市、福岡市及び福岡県のひきこもりセンター運営に従事する実務者等

### 4 連絡会の開催

#### (1) 開催頻度

年1回程度

#### (2) 開催場所

福岡県精神保健福祉センター他（各ひきこもり地域支援センター等）

### 5 協議内容

(1) ひきこもりセンターの運営や連携のあり方について

(2) ひきこもり状態にある本人やその家族への効果的な支援のあり方について

(3) その他ひきこもり対策推進に必要と考えられる事項について

## 令和元年度ひきこもり対策連絡会議開催要領

### 1 目的

福岡県ひきこもり地域支援センター（以下「ひきこもりセンター」という）における役割として、関係機関との連携強化及び相談窓口の強化が挙げられる。

このことから、県保健福祉（環境）事務所等との連携構築を図るために、ひきこもりセンターと各保健福祉（環境）事務所、久留米市及び大牟田市との連絡会議を開催するもの

### 2 会議構成員

- (1) 保健福祉（環境）事務所、久留米市及び大牟田市のひきこもり担当者等
- (2) ひきこもりセンターの担当者及び支援コーディネーター等

### 3 議題

- (1) 情報提供「ひきこもり対策事業の取り組み状況」
- (2) 講話「ひきこもりに関する理解と支援の流れ」
- (3) 事例報告  
ひきこもり事例への支援状況等に係る情報交換

### 4 開催場所等

- (1) 場所 福岡県精神保健福祉センター 研修室
- (2) 日時 令和元年9月12日（木）14：00～16：00

## 令和元年度福岡県ひきこもり支援者等ネットワーク会議開催要領

### 1 目的

社会的ひきこもり状態にある本人及び家族等を支援する医療・福祉・労働・教育等の機関からなる福岡県ひきこもり支援者等ネットワーク会議を開催して、実務レベルの連携を行うとともに、ひきこもり支援に伴う課題等の情報共有並びに各関係機関職員の交流及び資質の向上を図るものとする。

### 2 事務局

事務局は、福岡県ひきこもり地域支援センターに置く。

### 3 会議

福岡県精神保健福祉センター所長は、年1回程度、会議を開催する。

### 4 構成員

構成員は、次に掲げる福岡県域で社会的ひきこもりを支援する団体及び機関の職員とする。

- (1) ひきこもり支援民間団体
- (2) 雇用支援機関（ニート支援等）
- (3) 当事者団体（親の会等）
- (4) 思春期支援機関
- (5) 保健福祉センター・精神保健福祉センターなどの行政の相談機関
- (6) 発達障害者支援機関
- (7) 県内のひきこもり地域支援センター
- (8) 上記のほか、ひきこもり者を支援する上で必要と認められるもの

### 5 協議事項

会議では次に挙げる事項を協議する。

- (1) ひきこもり支援に関する情報及び、各関係機関の活動状況の報告
- (2) ひきこもり相談事例を通じ、各関係機関の対応や連携の在り方

## 令和元年度ひきこもり支援関係者研修会開催要領

### 1 目的

ひきこもり支援者の人材育成と資質向上を図ることを目的に開催するもの

### 2 対象者

- (1) 保健福祉環境事務所職員、市町村職員、医療・福祉・労働・教育機関等の関係者
- (2) 福岡県ひきこもり対策連絡調整会議委員
- (3) その他ひきこもり支援関係者（民間支援団体・地域活動支援センター・社協など）

### 3 開催内容

#### (1) 日時

令和元年7月11日（木） 14:00～16:00

#### (2) 会場

福岡県精神保健福祉センター 研修室

#### (3) プログラム

<講演>演題「中高年のひきこもりについて考える

～内閣府調査『生活状況に関する調査報告書』から見えたこと～」

講師 久留米大学文学部社会福祉学科 門田光司 先生

### 4 参加費

無料

### 5 定員 100名

令和元年度福岡県ひきこもりサポーター養成研修会  
開催要領

1 目的

ひきこもりからの回復者及びその家族でひきこもり支援に関心のある者を対象に、ひきこもりに関する基本的な知識を修得させる「ひきこもりサポーター養成研修」を行う。

2 主催

福岡県（精神保健福祉センターとこころの健康づくり推進室）

研修参加者の推薦募集についてはこころの健康づくり推進室が実施し、研修会については精神保健福祉センターとこころの健康づくり推進室とで実施する。研修修了者を対象に、サポーターとして活動することを同意した者から同意書を徴収する。

3 対象者

こころの健康づくり推進室より推薦があった者  
（室より研修会案内を実施し、集約予定）

4 日時

令和元年 10 月 25 日（金） 10:00～16:00（受付 9:30～）

5 会場

福岡県精神保健福祉センター（集団療法室）

6 内容

別紙 3 プログラム参照

7 参加費

無料

8 その他

こころの健康づくり推進室がサポーターの名簿を登録・管理をする。

# 令和元年度 ひきこもり家族教室のご案内

～ひとりで悩んでいませんか？～

福岡県ひきこもり地域支援センターでは、社会的ひきこもり状態の方のご家族を対象に家族教室を開催します。ひきこもりについて正しく理解したり、言葉かけの工夫などを学んだりする時間と、参加者同士の交流の時間を用意しています。お気軽にご参加ください。

- 対象者○ 県内に居住するひきこもり状態にある方のご家族（15名程度）  
○日 時○ 年間の全4回（2クール実施）の教室です。研修会も実施します。

	開催日程		内 容
1 ク ー ル	第1回	令和元年 6月 6日（木）	ひきこもりの基礎知識、支援センターの出来ること
	第2回	令和元年 7月 4日（木）	ひきこもりの症状と対応
	第3回	令和元年 8月 8日（木）	家族の支援と役割（DVD鑑賞）
	第4回	令和元年 9月 5日（木）	ひきこもり本人からのメッセージ
2 ク ー ル	第1回	令和元年 11月 7日（木）	ひきこもりの基礎知識、支援センターの出来ること
	第2回	令和元年 12月 5日（木）	ひきこもりの症状と対応
	第3回	令和2年 1月 9日（木）	ひきこもり本人からのメッセージ
	第4回	令和2年 2月 6日（木）	家族の支援と役割（福岡県立大学 四戸智昭 先生）

毎月第1または第2木曜日 14：00～16：00

## 参加者からの感想

「参加することで、気持ちが楽になった。」「悩んでいるのは自分だけじゃないと思った。」「ひきこもり本人の気持ちを理解できるようになった気がした。」「親の方が変わって、声をかけていこうと思った」

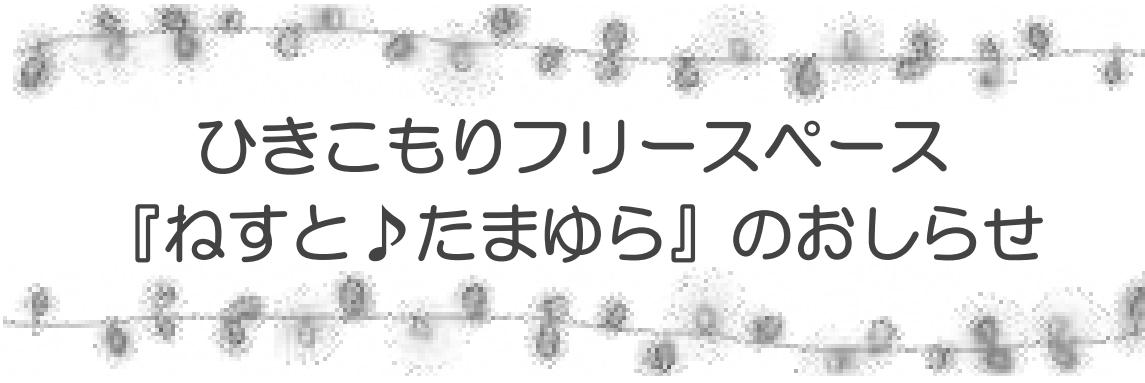
ひとりで抱え込まず、  
教室に参加してみませ  
んか？

- 申込み○ ①随時、申込みを受け付けます。  
②参加ご希望の方には、事前に個別でお話をうかがいます。

○場 所○ 福岡県精神保健福祉センター 研修室







# ひきこもりフリースペース 『ねすと♪たまゆら』のおしらせ

家から一步踏み出して、誰かと一緒に時間を過ごしてみませんか？



『ねすと♪たまゆら』は、参加されている方と一緒に考えた  
フリースペースの名前です。



「ねすと」には、いこいの場、「たまゆら」には、ほんのしばらくという意味があります。  
“すこしの間、安らいで過ごせる場所になってほしい”という思いで名づけました。

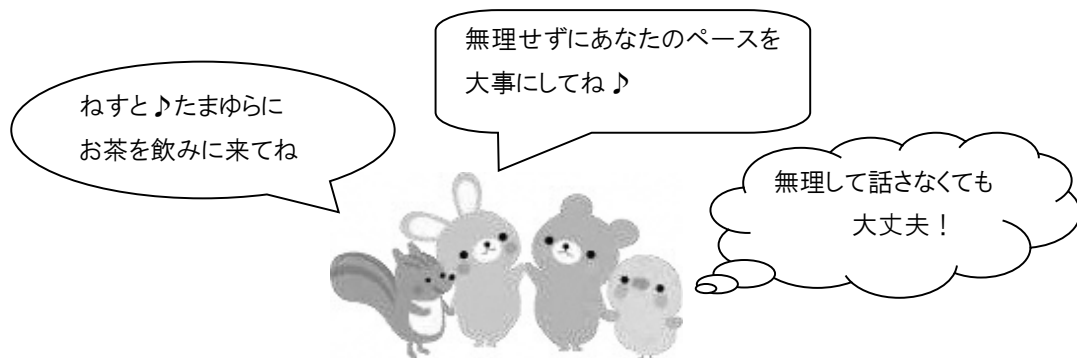


ぜひ一度、参加されてみませんか？  
見学のみも可能です。ご連絡お待ちしております。



## 開催日

毎月2回の開催です。詳細は、裏面開催日程をご参照ください。  
午後2時から午後4時（この間なら、いつ来られても、いつ帰られても自由です）



## ご利用案内

- 【対象者】福岡県にお住まいの社会的ひきこもり状況にある概ね18歳以上のご本人
- 【場所】福岡県精神保健福祉センター  
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7 南側2階
- 【費用】無料
- 【参加申込】参加ご希望の方には、事前に個別でお話をうかがいます。  
まずは下記の専用電話にご連絡ください。
- 【申込先】福岡県ひきこもり地域支援センター（福岡県精神保健福祉センター内）  
Tel 092-582-7530

# 家族サロンのご案内

< ひきこもりのご家族対象 >

こういとき家族にどう対応したらいいんだろう？  
ひとりで悩んでいませんか？

家族サロンは、ひきこもりについて同じ悩みを持つご家族となんでもお話しできる場所です。  
ひとりで悩まずに一度参加されてみませんか？

みなさまの参加をお待ちしております。

話したくない時は  
話さなくてもいいんですよ

参考になる資料なども  
ありますよ  
一度、きてみませんか？



○日 時: **毎月第3金曜日** 午後2時から4時(出入り自由)

※事前予約不要

ただし初回のみ事前に個別にお話を伺います。

まずは下記の専用電話にご連絡ください。

○場 所: 福岡県ひきこもり地域支援センター(福岡県精神保健福祉センター内)

○連絡先: Tel 092-582-7530

〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7 南側2階

# 令和元年度

# ひきこもり支援関係者研修会

○日 時○ 令和元年7月11日(木)

14:00~16:00(受付 13:30~)

○会 場○ 福岡県精神保健福祉センター 研修室

《講演》

演題

中高年のひきこもりについて考える

「～内閣府調査『生活状況に関する調査報告書』から見たこと～」

講師 久留米大学文学部社会福祉学科 教授

門田 光司 先生

○参加費○ 無料

○対 象○ 行政機関、市町村、医療・福祉・労働・教育関係等の職員、  
相談機関等の職員、その他ひきこもり支援に関心のある方

○定 員○ 100名

○申込み○ 令和元年7月4日(木)までに、裏面研修会申込書にご記入のう  
え FAX または郵送にてお申し込みください。

※ただし定員になり次第締め切らせていただきます。

●お問い合わせ・申し込み先 ●

福岡県精神保健福祉センター

相談指導課

福岡県春日市原町3丁目1-7 南側2階

TEL: 092-582-7510

FAX: 092-582-7505

